

2018

FIT

平成29年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

For all the students
～すべての学生生徒のために～

福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部・福岡工業大学附属城東高等学校

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学



全国トップクラスの教育拠点を目指して

～入学志願者12年連続増加と就職率8年連続上昇を経て～

本学園の運営につきましては、平素より格別のご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、我が国の政府は、「教育・人材力の抜本強化」を成長戦略の一つの柱として位置づけ、教育機関に対して、産学連携による実践的教育の実施や、数理・データサイエンス教育の強化、工学教育改革等を実行することを求めています。更に、AI・ロボット等の先端技術の発達による大きな社会変革に対応し、新たな社会をリードする人材を育成することを求めています。

私学については、これらの要請に的確に応えることはもとより、「**財政的自立・自存**」も求められています。学齢人口の減少期において、**経営改革と教育改革の断行**を迫られている状況と言えます。

このような環境の中で、本学園は早期から学校改革の重要性を認識し、**経営理念のもとに20年にわたって多様な試み**を行ってきました。これらの取組は、相応の成果を創出し、「**12年連続入学志願者の増加、8年連続就職率の上昇、3設置校全ての財政安定化**」につながっています。本報告書の主要な成果としてまとめているとおりです。

しかし、私たちは、この現状に満足することなく、いっそうの経営と教育研究の改革・改善を推し進め、「**全国トップクラスの教育拠点**」を形成し、社会の変革に適應できる強い人材の育成を目指してまいります。

この教育・研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、卒業生、そして学校運営にご支援をいただく企業・地域の皆様に、私どもの経営・教育・研究及び財務の諸活動の取組とその成果について具体的にご説明し、いっそう本学園をご活用いただくことを目的としています。

おって、この報告書を通じた関係の皆様と本学園の双方のやりとりは、私どもが諸活動を磨き高めるには欠くことのできない貴重な機会であると存じます。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

平成30年7月1日

福岡工業大学・同短期大学部

学長 **下村 輝夫**

INDEX

I.ごあいさつ(学長メッセージ) ……	1
II.大学の主要な取組成果(マスタープランの取組成果とその外部評価)	
1.入学志願者・入学者の状況(戦略I) ……	3
2.教育力の発揮(戦略II) ……	5
3.研究の高度化(戦略III) ……	7
4.就職力の強化(戦略IV) ……	9
5.グローバル化と地域連携の取組(戦略V) ……	11
6.財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化(戦略VI) ……	13
7.学校運営に対する外部評価 ……	15
III.学園のプロフィール、各設置校の状況	
1.学園の沿革 ……	17
2.キャンパスの概要 ……	19
3.大学院の取組 ……	21
4.短期大学部の取組 ……	23
5.附属城東高校の取組 ……	25
IV.学校改革(教育改善・研究高度化・就職支援等)の具体的取組状況	
1.教育改善の取組 ……	27
2.研究高度化の取組 ……	29
3.就職支援の取組 ……	31
4.ラーニングサポートの取組 ……	33
5.キャンパスライフサポートの取組 ……	35
V.バックデータ集	
1.マスタープランの概要 ……	37
2.データ ……	38

1. 入学志願者・入学者の状況(戦略 I)

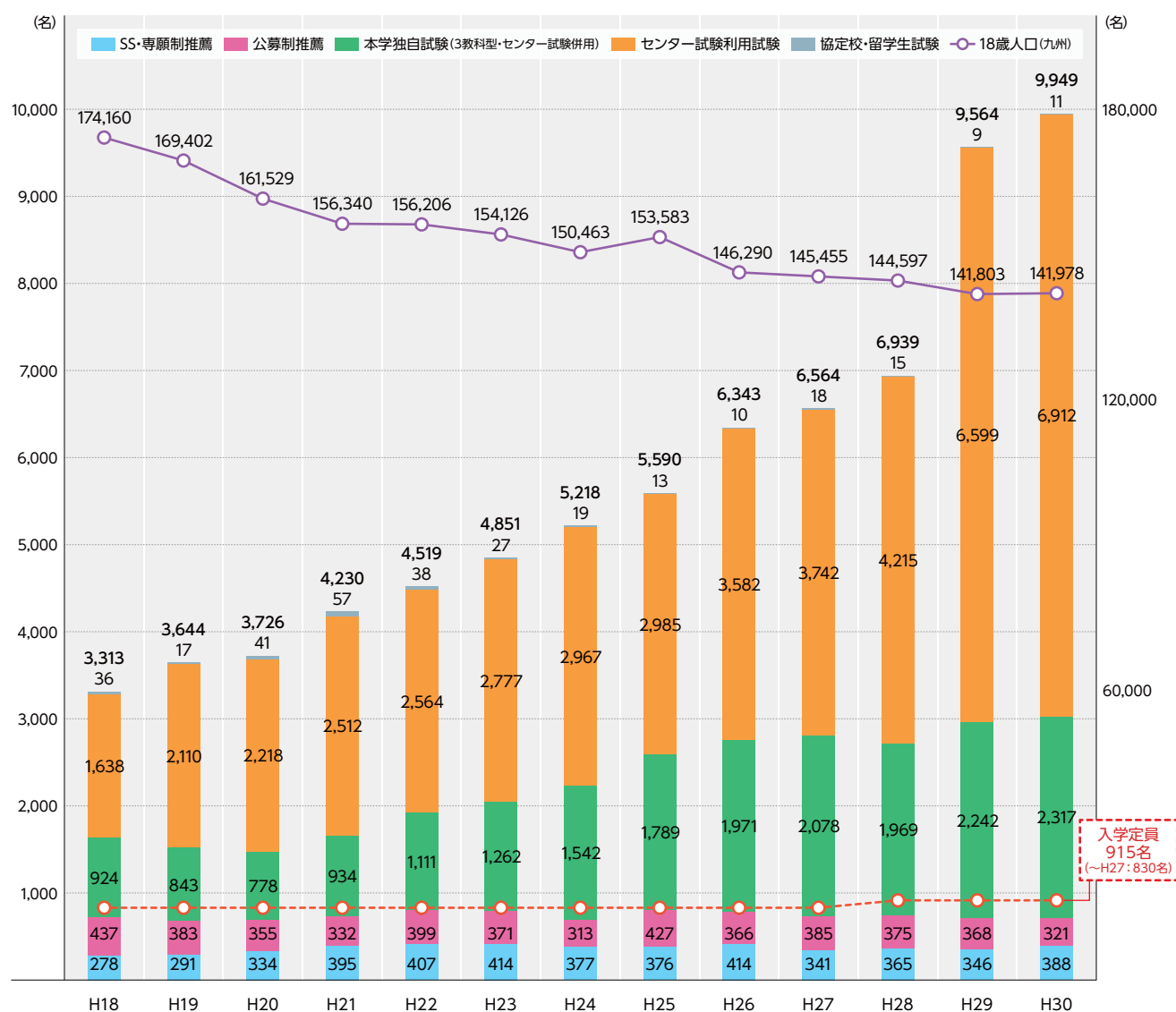
大学は、12年連続で志願者が増加しました。入学者も安定的に確保しています。

教育・研究活動に関する情報公表を積極的に進めるとともに、高校との連携強化・ネットワーク拡大を進めてきました。その結果、「12年連続の志願者増加(私立大学では本学のみ(大学通信調べ))」となりました。入学者も所定の定員を安定的に確保しています。

一般入試の志願者が増加し、過年度最高の志願者・実志願者数を確保

平成30年度入試では9,949名となり、実志願者数と併せて過年度最高を記録しました。女子志願者(2,018名)も、前年度比27%の大幅な増加(平成18年度の約7倍に増加)となりました。これに伴い、一般入試の難易度は年々高くなっています。

■大学の入試種別ごとの志願者推移



教育・研究活動に関する情報を積極的に公表。学びの実体験機会も拡大

高校生や保護者の信頼・評価向上に向けて、オープンキャンパス、入学相談・説明会等で、教育・研究の取組状況や成果・業績を積極的に公表しました。また、中学生・高校生対象の模擬講義、研究室見学会、ものづくり学習会を行うなど、大学での学びを実体験する機会を拡大しました。



入試説明会



模擬講義



研究室見学会



学科紹介体験イベント(生命環境化学科)



学科紹介体験イベント(情報工学科)



学科紹介体験イベント(社会環境学科)

高校・大学の教育活動連携を強化。高大接続システム改革ネットワークを拡充

高校・大学連携の重要性から、附属城東高校との連携授業(i-STEM教育)を強化し、併せて他大学や福岡県内の高校とともに「高大接続」に関する研究会を継続して開催しました。また、教員免許更新講習、高校生研究発表会(福岡県高等学校工業クラブ連盟主催等)等を積極的にサポートしました。

■ 大学と附属城東高校との高大連携課外授業(i-STEM教育)



ロボットコンテストのシステムプログラミング



オリジナルのIoTシステムの開発



大学生研究発表会の模擬

■ その他の高校・大学連携の活動



高大接続教育研究会



教員免許更新講習



高校生徒研究発表会(ポスターセッション)

- ▶ 高大接続システム改革に向けて、高大接続教育研究会を開催しています。高校・大学教育の円滑な接続を重視し、相互交流による教育内容の理解と教育活動の活性化を目指しています。これには、中村学園大学、西南学院大学等と福岡県の高校が参加しています。

2. 教育力の発揮 (戦略Ⅱ)

教育改革・改善の活動は、国等の評価が高まり、優良な取組として選定・採択されました。

教育改革・改善の取組を組織的・体系的に実施しています。特に、近年はアクティブラーニング(AL)の展開と、その教育設備等の整備も積極的に進めてきました。それらのことが高く評価され、国等の選定・採択難易度の高い支援事業に採択されています。

文部科学省私立大学等改革総合支援事業「教育の質的転換」に4年連続採択

FD*推進機構を設置し、教育内容・方法の改善・向上に関する企画、開発、推進を行っています。この組織が中心となり、「教育の質的転換」に向けた様々な取組を行った結果、4年連続の採択となりました。

*FD: Faculty Development (教授・教育方法開発)

■私立大学等改革総合支援事業タイプ1(教育の質的転換)の対象取組

全学的な教学マネジメント体制の構築

- ・ 入学者受入れ方針、教育方針、学位授与方針の点検・評価
- ・ 学長を中心とした教学マネジメント体制の構築
- ・ IR担当部署の設置と専任教職員の配置
- ・ 職員の職能開発の実施

教育の質向上に関するPDCAサイクルの確立

- ・ シラバスの実質化
- ・ 学生の学修状況の組織的な把握
- ・ 学生による授業評価結果の活用
- ・ 授業改革実施のための組織的取組
- ・ アクティブラーニング授業の実施

教育の質向上に資する取組に関する評価

- ・ 履修系統図等による教育課程の系統化
- ・ 学生の学修成果の把握
- ・ オフィスアワーの設定
- ・ GPA制度の活用
- ・ 一定期間での履修科目登録上限の設定

高大接続改革の推進

- ・ 能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入試の実施
- ・ 入学後の成績状況把握等による選抜方法の妥当性検証
- ・ 高校教育と大学教育の連携強化

▶ PDCA (Plan:具体的な計画、Do:確実な実行、Check:実績の点検、Action:評価に基づく改善)による管理サイクルで、教育改善を継続しています。

全学をあげて組織的・体系的に教育内容・方法を改善

教育の質向上の基盤としてFD推進機構を設置し、ここが中心となって全学をあげた「学生の主体的な学修」等の新たな教育・学習方法に取り組んでいます。学部等の特徴を活かしながらAL*1型授業・PBL*2を拡大させる等の教育改善を継続しています。

*1 AL:Active Learning (主体的学修) *2 PBL:Project Based Learning (課題解決型学習)

	工学部	情報工学部	社会環境学部
全学FD	<ul style="list-style-type: none"> ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー改訂 アクティブラーニング展開 教養教育ポリシー改訂 FD Cafe 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの高度活用 教養教育カリキュラム改訂 AL実践研究会(全学FD研修会) 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育高度化 学習ポートフォリオ開発 学生FD活動支援
学部別FD	<ul style="list-style-type: none"> 講義PDCA 学部と大学院の連携教育 FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 教育改善PDCA 個別相談コーナー開設 他学科科目履修制度創設 FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 先進的教育事例研修 FD研修会
入学前教育	<ul style="list-style-type: none"> e-Learning方式による数学基礎力強化(推薦入試合格者対象) 		<ul style="list-style-type: none"> e-Learningによる日本語表現・作文力強化(推薦入試合格者対象)
リメディアル教育	<ul style="list-style-type: none"> 導入科目による基礎学力の底上げ 「フレッシュマンスクール」による数学基礎力向上 		<ul style="list-style-type: none"> 「フレッシュマンスクール」による作文力向上
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 情報系基礎科目による情報スキル養成 		
英語教育	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラス編成による効果的な教育の実施(平成29年度より新カリキュラムに移行) 		
創成型教育	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型授業による創造性を磨く授業の展開 		
少人数ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 実験科目・ゼミナールなどにおける自主的学修の促進 		
表彰制度	<ul style="list-style-type: none"> 成績優秀者、資格取得者の表彰 		<ul style="list-style-type: none"> 資格取得者の表彰

新たな教授方法等に対応した教育環境の整備を積極化

AL型授業など新しい教育方法に対応できるスペースを拡充し、グループワーク、ディスカッション、コミュニケーションに適した環境を整えています。また、キャンパス全域をラーニングコモンズ化して、学生の主体的な学修を促しています。



アクティブラーニング対応教室(E棟)



グループスタディエリア(C棟)



個人・グループ学習エリア(A棟)



アクティブラーニング型授業



第13回FD研修会「FD Café」
教職員と学生FDの懇談会(平成29年9月)



教員・学生FD活動の情報公表

▶ 教育改善の具体的取組内容・手法はP27参照

3. 研究の高度化(戦略Ⅲ)

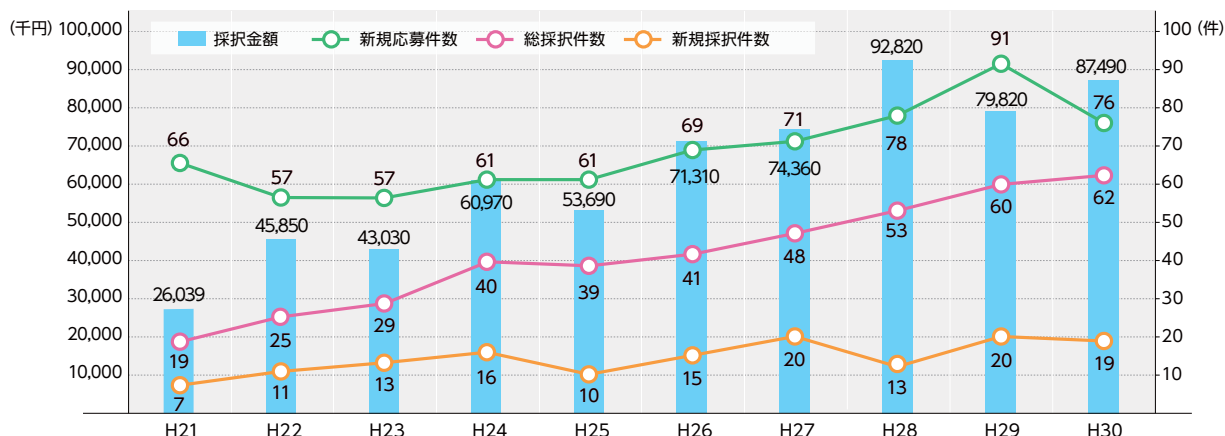
研究活動の外部評価が飛躍的に高まり、国・産業界等の研究支援実績は「過年度最高」を毎年更新しています。

研究基盤や研究支援体制整備を継続して積極的に進めたこと等により、採択難易度の高い研究助成事業への補助採択が増加しました。国・企業等からの研究支援拡大の状況や地域の研究拠点としての評価の確立が、様々な指標等により裏付けられます。

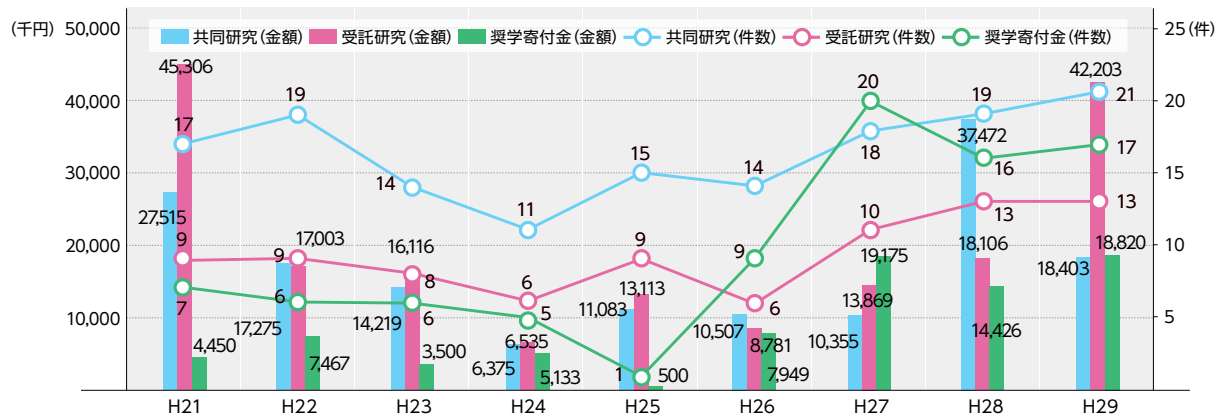
国の科学研究費* (科研費) や企業等の研究支援の状況は「過年度最高」

平成30年度科研費の採択件数は62件と「過年度最高」(うち19件が新規採択)です。国や企業等との共同研究・受託研究など外部資金獲得件数も111件で「過年度最高」です。

■ 科研費採択推移(短期大学部含む)



■ 外部研究資金の取得実績推移



■ 学術誌等の研究評価ランキング

<p>■ 教員博士号取得者比率 (H29実績)</p> <p>全国国公立大学中1位</p> <p>工学部 100.0%</p> <p>情報工学部 100.0%</p>	<p>■ 国際共著論文の割合</p> <p>全国の国公立大学中5位</p> <p>H25-29実績</p> <p>39.7%</p>	<p>■ 科研費の学内専任教員採択率 (採択50件以上)(短大除く)</p> <p>全国理工系私大中1位</p> <p>36.9%</p>	<p>■ 教員1人当たり論文数</p> <p>全国の国公立大学中26位</p> <p>(H25-29の総論文数/全教員数)</p> <p>8.26本</p>
--	--	---	--

▶ *科学研究費助成事業は、我が国の多領域の学術研究を飛躍的に発展させることを目的とする競争的資金であり、独創的・先駆的な研究を助成する制度です。

外部と連携した研究活動をサポートするために研究組織・体制を強化

研究者の社会貢献意識の高さに加え、外部資金(共同研究、受託研究)を確保する体制の確立、研究資源のきめ細かな確認や工夫改善の取組は、特色ある研究の進展に大きく貢献しました。

■ 国等の産官学共同研究事業の申請状況

No.	事業者(所管官庁)	事業等名	採択年度	研究者		研究課題
1	科学技術振興機構 (文部科学省)	地域産学バリュープログラム (現:A-STEP 機能検証フェーズ)	29年度	情報工学科	松尾 一壽 教授	大型食品焼成機における静電誘引形 インクジェットを用いた食用油の高精 度均一塗布
2	科学技術振興機構 (文部科学省)	マッチングプランナープログラム [企業ニーズ解決試験]	28年度	知能機械工学科	仙波 卓弥 教授	超硬合金製マイクロレンズアレイ金 型に対するナノマイクロ機械加工技 術の開発
3	科学技術振興機構 (文部科学省)	マッチングプランナープログラム [企業ニーズ解決試験]	28年度	電気工学科	北川 二郎 教授	酸廃液を出さないネオジム磁石から の全元素分離回収技術に向けた要素 技術の開発
4	科学技術振興機構 (文部科学省)	戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発)	27年度	社会環境学科	森山 聡之 教授 (多技術・知恵をつなぐ) チーム	分散型水管理を通じた、風かおり、緑 かがやく、あまみず社会の構築
5	東北総合通信局 (総務省)	戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) 地域ICT振興型研究開発(フェーズI)	26年度	情報通信工学科	内田 法彦 教授 (研究分担者)	準静電界センシングによる路面状態 推定技術を利用した交通問題対策の 研究開発

先進的研究装置を積極的に導入、学生研究施設も大幅に増設し将来の研究基盤を整備

研究活動の活性化・高度化に向け、新たにオープンスペースを設けました。また、文部科学省等の支援採択・選定を受け、57種の研究装置等を配備しています。これは、有用な研究活動がなされていると高く評価された証です。

■ 文部科学省補助採択事業として導入した主な研究装置



電界放出形走査電子顕微鏡 (FE-SEM)

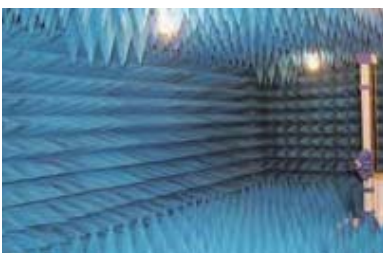


DXR顕微レーザーラマン分光装置



小角X線散乱測定装置

■ 平成29年度に整備した大型の研究施設・設備



E棟 電磁波計測センター 電波暗室



F棟 EV(電気自動車)・水素自動車研究 開発装置



B棟 食品農医薬品研究センター

4. 就職力の強化(戦略Ⅳ)

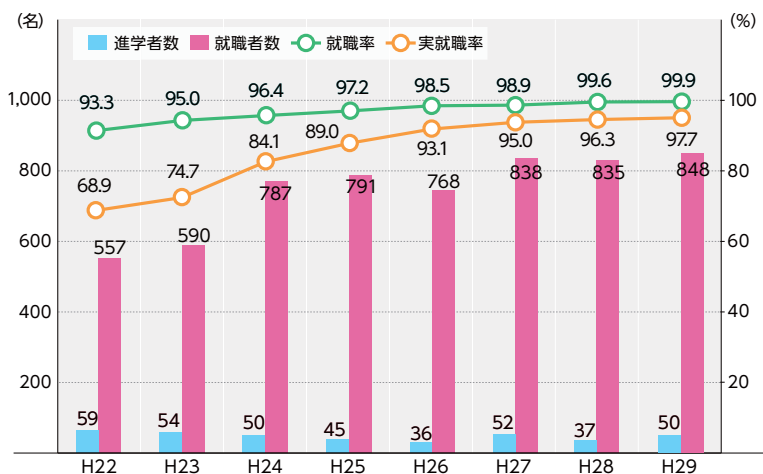
就職率・実就職率等の就職関連指標が8年連続で向上しました。

キャリア教育カリキュラムを体系的に整備して、入学初年度から段階的に就業力を育成しています。併せて、さまざまな就職支援策の実施や、広範な企業ネットワーク形成による企業からの強力なバックアップ等により、良好な就職状況となりました。

就職関連指標は全国トップレベル、就職率は99.9%

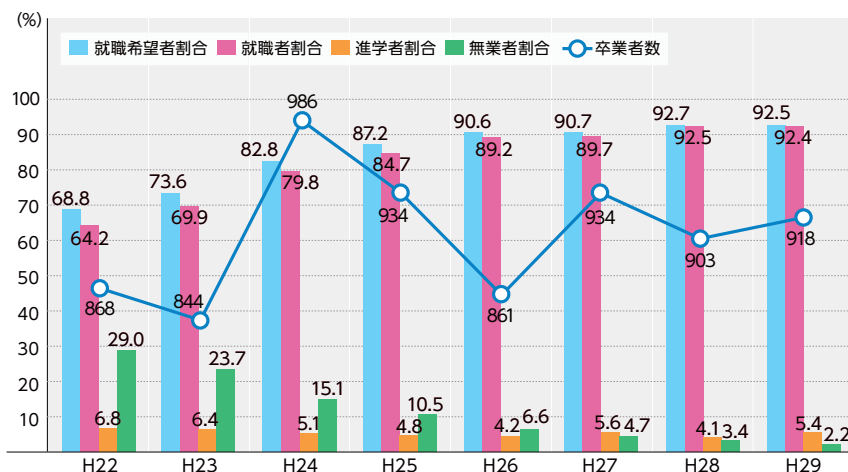
大学の就職率・実就職率は「過年度最高」、就職先の約7割が上場企業や大手・中堅企業です。無業者割合も、早期から行う就業教育等によって毎年低下しています。

進路決定状況推移

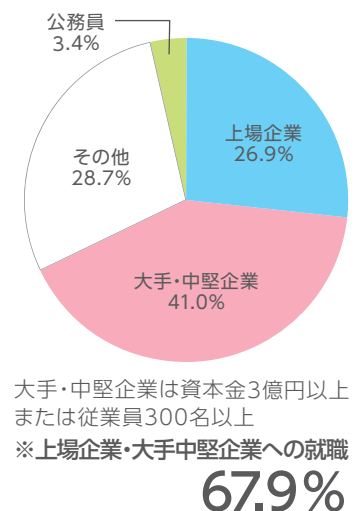


就職率 **99.9%**
実就職率 **97.7%**

卒業者に対する就職希望者・就職者等割合推移



企業規模別就職状況

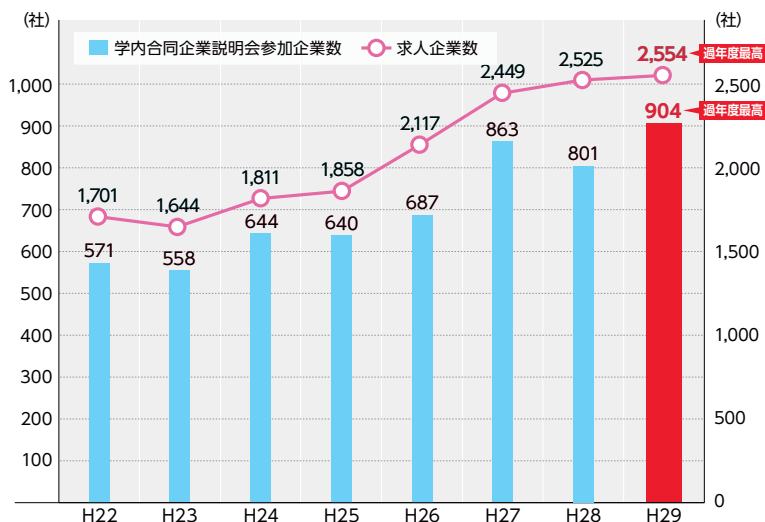


▶ 就職率 = 内定者数 ÷ 就職希望者数、実就職率 = 内定者数 ÷ (卒業者 - 大学院進学者数)

広範な企業ネットワークで、就活の強力なバックアップ体制を確立

東京・大阪・福岡に企業訪問専従者を置き、三大都市圏・九州・山口企業ネットワークを形成。企業説明会参画や卒業生の状況把握協力をはじめ、多方面のサポートを得ています。

■ 学内合同企業説明会参加企業数、求人企業数推移



■ 学内合同企業説明会の様子

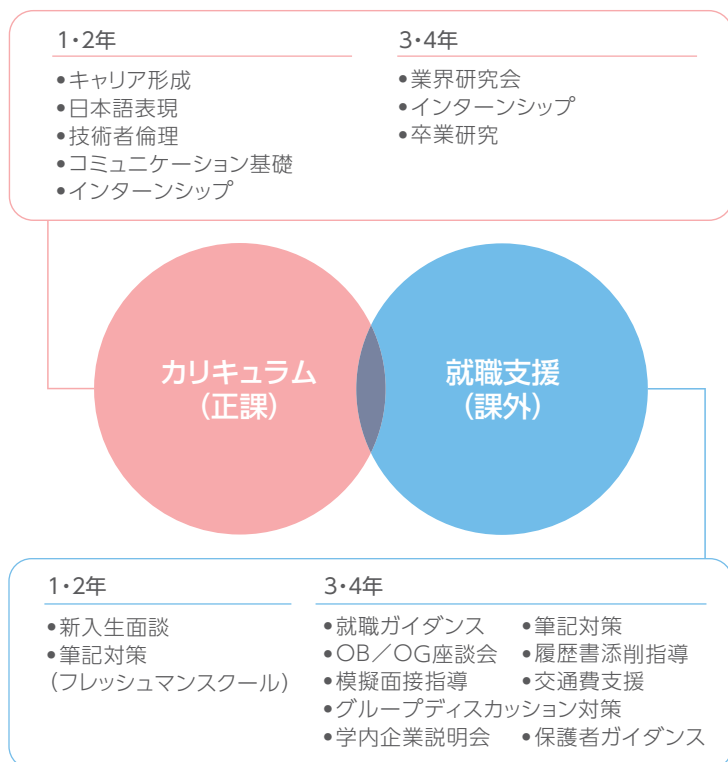


▶ 約900社の参画を得て行う学内合同企業説明会で、約8割の学生が就職内定

正課・課外でのキャリア教育によって「就業・就活力」を育成

正規授業科目に「キャリア形成」や「就業実習」等を配置し、それらの学びを確実に就職に繋げるため、筆記対策や模擬面接指導等の課外指導を体系的に行いました。

■ 正課・課外で行うキャリア教育の連関



課題解決型インターンシップ
福岡県古賀市(テーマ:市内バス路線の利用促進)



模擬面接指導

5. グローバル化と地域連携の取組 (戦略V)

グローバル化・地域貢献の活動基盤が整い、それらの取組がさらに活発化しました。

グローバル人材・地域貢献人材の育成に向けた施設・制度などの組織・体制整備が進み、高まる学習ニーズに対応しています。また、一人ひとりの目的に合わせた多彩なPBL（課題解決型学習）型国際交流プログラムを用意して、グローバルな視野を持つ地域人材を数多く育てています。

文科省私立大学等改革総合支援事業は、地域発展・グローバル化ともに選定・採択

当年度も、私立大学等改革総合支援事業の「地域発展」「グローバル化」に採択されました。2年連続での採択となり、諸取組の特色化・機能強化に向けた改革が進展していることの証として高く評価されています。

■ 文部科学省私立大学等改革総合支援事業「地域貢献」(タイプ2)「グローバル化」(タイプ4)の対象取組

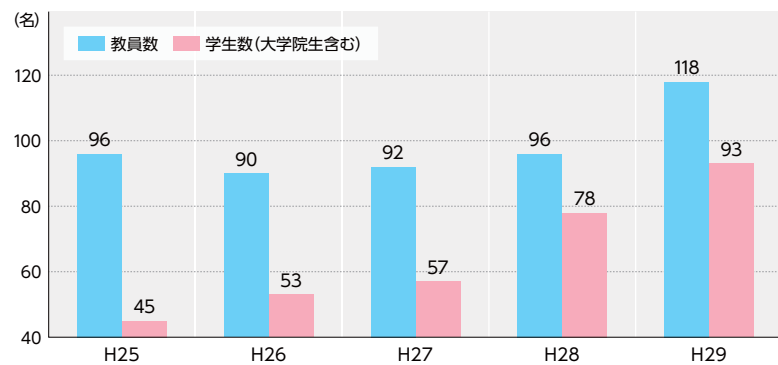
地域発展 (タイプ2)

- ・大学・地域連携推進室の設置と専任職員の配置
- ・教育課程編成時における自治体・地元産業界からの意見聴取(ヒアリング)
- ・社会人対象の多様な履修形態の整備(大学院における昼夜開講制の導入)

グローバル化 (タイプ4)

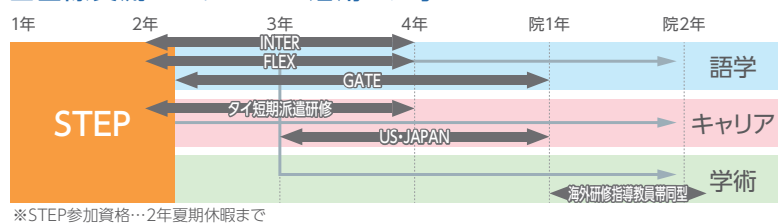
- ・グローバル化推進委員会、並びに国際戦略室の設置
- ・ITを活用した英語の自学自習支援 (FALCNetAcademy 2)導入)
- ・外国人留学生・教員と地域住民との交流実施

■ 国外への教員・学生派遣の状況



台湾・国立高雄第一科技大学と学術交流に関する協定を締結 (平成29年7月)

■ 国際交流プログラムを活用した学びのプロセス



※STEP参加資格…2年夏期休暇まで

	滞在期間	渡航先・研修先
STEP (Short Term Experience Program)	5~9日間	シンガポール、中国、ハワイなど
INTER (Intensive Training for English Learner Program)	21日間	フィリピンセブ島 語学学校
FLEX (Foreign Language Exploration)	21日間	ニュージーランド オークランド工科大学
GATE (Global Academy of Technological English Program)	13日間	フィリピン Brighture English Academy
タイ短期派遣研修 (Peer Practical Internship Program)	13日間	現地法人など



GATEプログラム修了証書授与式 (平成29年9月)

国際化教育支援体制の充実で、グローバルPBLや国際学会等の活動が活発化

ネイティブスタッフによる英語論文添削、国際学会発表の準備指導など、学生一人ひとりに向けた丁寧な指導を行い、学習成果を確実なものにしました。

■ 芝浦工業大学と合同で行うグローバルPBL (芝浦工業大学と連携・協力協定を平成28年10月に締結)



HUST (ハノイ理科大学) 学生とのディスカッション (平成30年3月)

■ グローバルスチューデントラウンジでの留学・語学学習相談、 教育プログラム開発



■ 国際学会発表直前のパブリック・スピーキング・スキル指導



英語による最終プレゼンテーション (同上)

地域社会にある課題の解決を題材とした学習活動が活発化

地域の課題解決を図りつつ、地域に貢献する人材の育成を目指す取組を積極化しました。これらの取組成果は、地域からの信頼の高まりに繋がっています。

■ 地域を対象とするPBL学習



新宮町 ごみ収集アプリ開発協力 (平成29年11月)



新宮町 立花小学校6年生に対するPC授業支援 (平成30年2月)



古賀市 バス乗っ特キャンペーン支援 (平成29年8.9月)



福岡県警察 高齢者安全対策VR開発協力 (平成30年3月)

6. 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化(戦略Ⅵ)

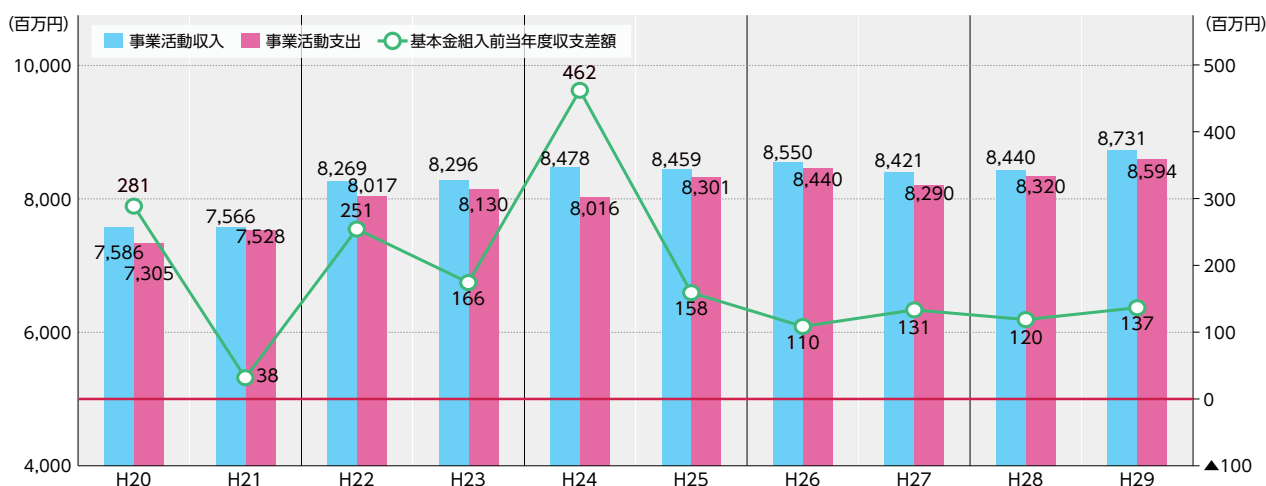
教育・研究への積極投資と「健全財政」(経常収支黒字)を13年連続で両立しています。

経営・財政運営の基本方針は、「健全財政を基盤にして、教育・研究活動へ積極的に資金投下することです。全国屈指の低学費でありながら、PDCAによる経営管理の仕組みによって、経営の効率化・安定化を実現しています。

教育研究活動への積極的資金投下と「安定財政」を高次でバランス

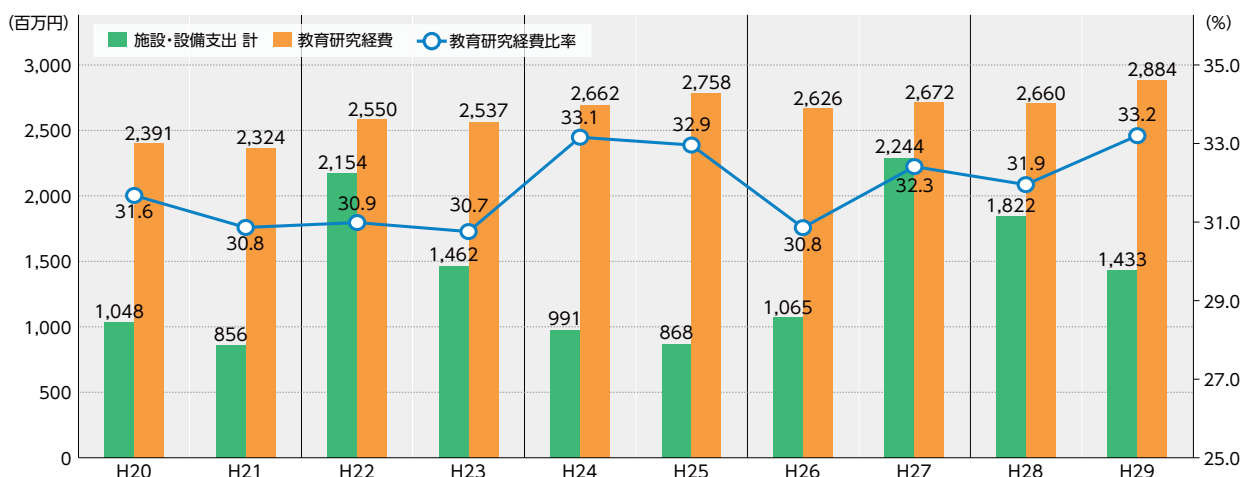
収支差額プラス(収入-支出=黒字)の目標額を低めに設定して、学費・補助金の教育・研究活動への最大還元を継続しています。

■基本金組入前当年度収支差額推移



▶ 過年度10ヶ年で累積した黒字額は約19億円になります。

■施設・設備支出、教育研究経費(比率)推移

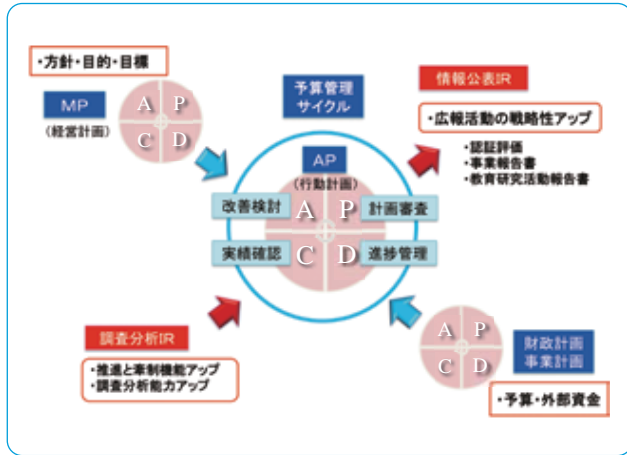


▶ 過年度10ヶ年で累積した施設・設備支出(教育・研究環境整備費用)は約140億円になります。

PDCAによる経営管理システムで、学園全体の経営効率化を実現

経営計画や行動計画をPDCA (Plan: 具体的な計画、Do: 確実な実行、Check: 実績の点検、Action: 評価に基づく改善) による経営管理システムによって、計画実現性を高めています。諸計画の実現性や費用対効果を高める努力を重ね、学園全体の経営を効率化しています。

PDCAによる経営管理システム



▶ MP: 経営計画 AP: 1年間の教育・研究等の計画
IR: 調査分析と情報公表

AP (1年間の教育・研究等の改善計画) の 部署等別進捗状況

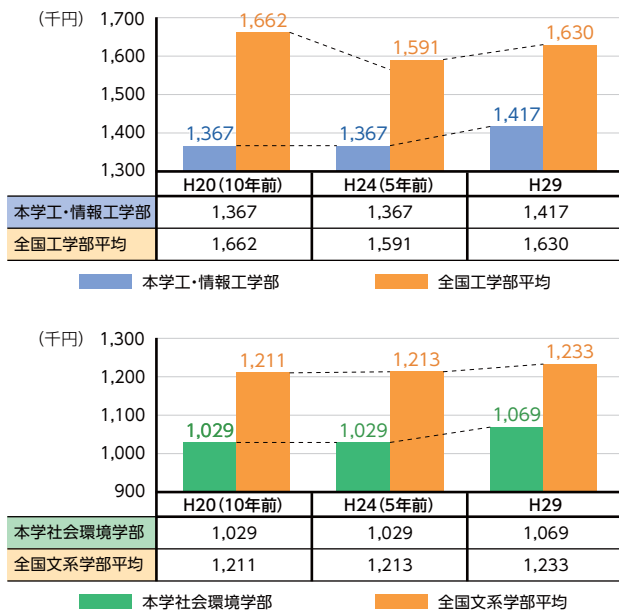
部署等名	事業等数	進捗度別 事業等数					
		100-80%		79-50%		50%未満	
		指標	プロセス	指標	プロセス	指標	プロセス
工学部	38	23	9	5	0	1	0
情報工学部	43	23	14	3	1	2	0
社会環境学部	9	7	2	0	0	0	0
工学研究科	35	23	3	8	0	0	1
社会環境学研究科	7	5	0	2	0	0	0
総合研究機構	10	8	2	0	0	0	0
大学事務局	100	65		17		18	
短大学科	59	31	13	7	2	5	1
短大事務局	4	4	0	0	0	0	0
高校課程	54	21	19	3	6	3	2
高校事務局	6	3	3	0	0	0	0
合計	365	278		54		33	
進捗度占有率	100.0%	76.2%		14.8%		9.0%	

▶ 定常的な学校業務とは別にAPを策定。全体の76.2%の取組が「80%以上の目標達成」となり良好でした。

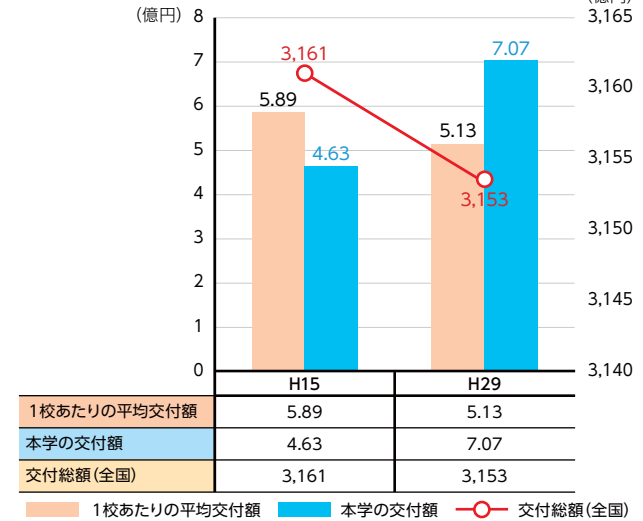
全国屈指の低学費(低収入)を「私学助成の積極活用(補助金収入増)」で補完

「低学費による低収入」を、教育・研究活動を活発化させることによる「私学助成の積極活用(収入増)」で補完しています。全国私立大学の経常費補助金が減少(大学1校あたり平均交付額0.8億円減少(13%減少))する中、本学は2.4億円増加(53%増加)しました。

大学・学部の学費の相対比較



私大等経常費補助金交付額推移



▶ 補助金交付順位は、141位/480校から91位/573校に上昇しました。

▶ 相対的低学費や家計に寄り添う親身な支援が奏功し、近年、経済的理由で休学・退学となる学生は、全国的水準と比べ圧倒的に低くなりました(全国大学の経済的理由による中途退学率20.1%に対し、本学は6.2%<私学事業団平成29年度調査>)。

7. 学校運営に対する外部評価

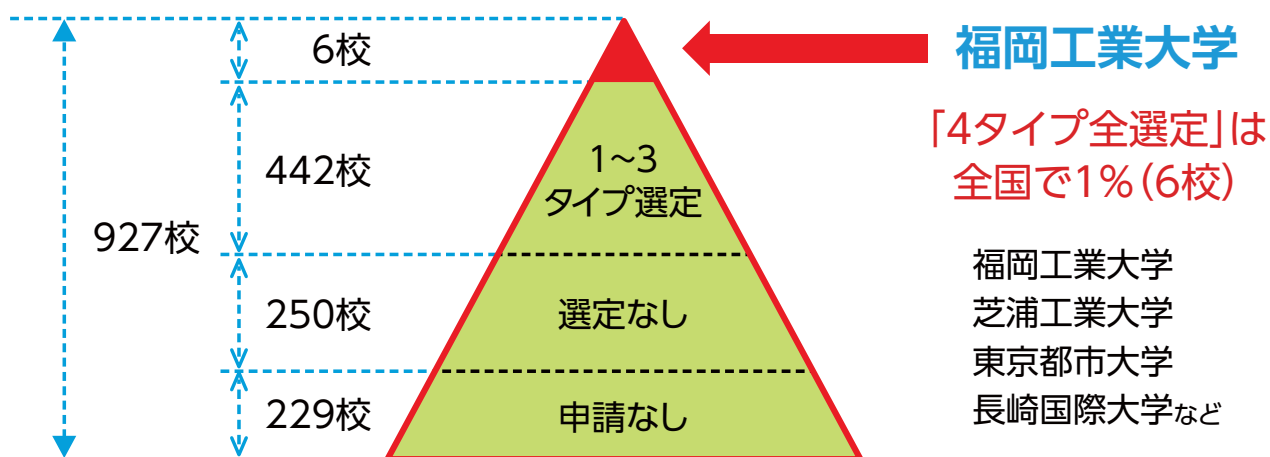
経営力、人材育成・輩出力について、外部評価はさらに高まりました。

経営財務の外部評価（格付審査）について「受審準備から評価結果公表までのプロセスが、本学園の経営状況の調査・分析・点検・評価として有効」と判断し取り組んでいます。格付の高さや「改革総合支援事業4タイプ連続全選定」は、大学ランキング誌・学校経営研究誌などでも高く評価されています。

全国927校の頂点にランキング。人材育成力、改革・行動力の活性度の高さが高評価

文部科学省私立大学等改革総合支援事業すべての領域（4タイプ）での連続全選定や大学ランキングでの高評価が相次ぎました。高校の生徒・保護者・教員各位、様々な方面からの厚い信頼・高い評価に繋がっています。

■文部科学省私立大学等改革総合支援事業の全国の選定状況



■主要ランキング



▶ 私立大学等改革総合支援事業：文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が一体となって、積極的に学校改革に取り組む大学等を評価・選定・支援するものです。この事業を総合的・一体的に推進することを本学の教育改革・改善の基本的な考え方としています。

経営体制とそのガバナンス(経営手法など)に対して継続して高い評価

計画・評価と予算の連動性が高く財政規律が保たれていることや、安定した財務構成とその中で効率的な施設、設備の投資計画が実行されていることについて、引き続き高く評価されています。

■ 格付会社2社からの評価 (R&I: (株)格付投資情報センター JCR: (株)日本格付研究所)

R&I格付

A

平成22年度から8年連続 [A]

JCR格付

A+

平成25年度から5年連続 [A+]

格付評価のポイント

- ・良好なガバナンスのもとで、法人と教学が一体で取り組むPDCAサイクルの実効性は高い。
- ・既存施設・設備の維持更新と新たな教育研究への積極投資を両立させた予算編成には定評があり、安定した財務構成は今後も維持可能である。
- ・相対的低額費と学生への高い還元率を両立させる経営方針であるが、現状推移では財政健全性は十分保たれる見通しである。

学校経営の「見える化」を促進、全国に向けて積極発信

経営管理の仕組みやその成果について、日本私立学校振興・共済事業団や日本私立大学協会等の関係団体の調査研究で高い評価を受けました。この他、予算管理、情報公表、職能開発(SD)の仕組みについても幾度となく調査研究の対象となり、好事例として全国に数多く紹介されています。平成28年10月には、文部科学省の「私立大学等の振興に関する検討会議」において、地方私大の改革事例として報告を求められ、相応の評価を得ました。

<p>「大学経営強化の事例集」</p> <p>文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。</p> <p>(2007.3)</p>	<p>「私学経営」</p> <p>私学経営研究会セミナー(東京・大阪の二地区で開催)における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。</p> <p>(2008.3)</p>	<p>「学校法人」</p> <p>経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。(日本私立学校振興・共済事業団レポート)</p> <p>(2008.7)</p>	<p>「大学外組織評価研究会」</p> <p>大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。</p> <p>(2009.3)</p>
<p>「大学評価・学位研究」</p> <p>本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。</p> <p>(2010.3)</p>	<p>「大学経営の評価システム」</p> <p>本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。</p> <p>(2012.3)</p>	<p>「教学IRとエンrollment・マネジメントの実践」</p> <p>本学の中期経営計画に基づいた経営管理システムが、実行できる中長期経営計画の好事例として、常務理事、事務局長のインタビューと併せて紹介されました。</p> <p>(2012.3)</p>	<p>「中長期経営システムの確立、強化に向けて」</p> <p>実効性のある中長期経営システムの構築に関連する事例調査の対象校の一つとして選定され、本学の中期経営計画に基づいた運営の特長が紹介されました。</p> <p>(2013.2)</p>
<p>「大学マネジメント改革」</p> <p>中堅職員対象の渡米研修による職員の企画・開発力養成に向けた取組が、先駆的なマネジメントシステムを担う、職員の能力開発の好事例として取り上げられました。</p> <p>(2014.3)</p>	<p>「私学経営」</p> <p>経営管理システムに内包するSD・OJT機能について、全国の大学関係者の前で講演した内容が、私学経営研究会の会誌に掲載されました。</p> <p>(2014.5)</p>	<p>「IDE 現代の高等教育」</p> <p>本学の的中堅職員の渡米研修が、戦略経営人材の育成の好事例として紹介されました。</p> <p>(2015.4)</p>	<p>「Between」</p> <p>対話し、議論する力を独自の成果指標で育成・評価する本学のアクティブラーニングが紹介されました。</p> <p>(2015.4)</p>
<p>「カレッジマネジメント」</p> <p>PDCAサイクルにより大学経営を高度化させる経営改革の仕組みが、他大学の先進事例として紹介されました。</p> <p>(2015.7)</p>	<p>「学校法人」</p> <p>経営計画をサポートする財政計画と予算管理の役割について、セミナー講演の抄録が新春号巻頭で掲載されました。</p> <p>(2016.1)</p>	<p>「大学のミッション経営」</p> <p>学園のミッション(使命)を具体化してPDCAサイクルのもとで実効性を高める本学の経営管理システムが、優良事例として紹介されました。</p> <p>(2016.7)</p>	<p>「大学・短期大学経営の事例集 ~経営基盤の強化のために~」</p> <p>私学スタッフセミナー(日本私立学校振興・共済事業団)での講演抄録が冊子としてまとめられました。</p> <p>(2017.3)</p>
<p>「私学経営」</p> <p>本学の経営計画策定とその実質化に向けた取組や経営改革ツールとしての広報活動について、私学経営研究会の会誌に掲載されました。</p> <p>(2017.5)</p>	<p>「私大振興検討会議「議論のまとめ」</p> <p>28年10月に、文部科学省「私立大学等の振興に関する検討会議」の席に学園の常務理事が招致され、経営改革事例を報告した議論のまとめが公表されました。</p> <p>(2017.5)</p>	<p>「日本私立大学協会の私学高等教育研究所公開研究セミナー」</p> <p>「第64回 私立大学のIRは何をすべきか? ~中・小規模大学におけるIRの現状と課題~」における本学のIR活動の講演の要旨が掲載されました。</p> <p>(2017.10)</p>	<p>「Between」</p> <p>IR活動がPDCAサイクルを回す装置として機能し、経営のガバナンスや改善・改革が円滑に進み、入学志願者増などの成果に繋がっている好事例として紹介されました。</p> <p>(2018.1-2)</p>

1. 学園の沿革

「科学技術創造立国」に貢献する「全国トップクラスの教育拠点」の形成を目指します。

大学・短大・高校の3校を設置しています。教育・研究領域は情報・環境・モノづくりの分野です。この領域に対応し、3設置校がそれぞれの社会からの要請に応えつつ、教育連携や内部進学 of 推進など三位一体となって発展してきました。

大学・短大・高校の3校を設置、教育連携を通じて三位一体で発展

3設置校が三位一体となって、国の「科学技術創造立国」政策や「地元九州・福岡の発展」に貢献することを目指してきました。学生・生徒は学園全体で約7,000名が在籍し、日々学術研究に勤しんでいます。



福岡工業大学



福岡工業大学短期大学部



福岡工業大学附属城東高等学校

工業技術、情報技術、さらに環境技術の進展に合わせて成長・発展

昭和29年以来、高校、短大、大学を順次開設してきました。大学は、工学部を起点に、高度情報社会に対応して情報工学部を、工業技術の環境調和に向けて社会環境学部を開設しました。国や社会のニーズに応えながら成長・発展しています。

沿革

電気通信技術の普及・振興に向けて—高校、短大、大学3校を開設—

昭和29年(1954年) 福岡高等無線電信学校を創設
昭和33年(1958年) 学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校を開設
昭和35年(1960年) 福岡電子工業短期大学(電子工学科)を開設
昭和38年(1963年) 福岡電波学園電子工業大学工学部(2学科・電子工学科、電子材料工学科)を開設

建設中の校舎(昭和37年頃)▶



電子技術立国による高度経済成長に向けて—工学系総合大学へ—

昭和41年(1966年) 大学の名称を福岡工業大学に変更。学科増設で工学部6学科(電子、電子材料、電子機械、管理、電気、通信)体制に
昭和58年(1983年) エレクトロニクス研究所開設

校舎の様子(昭和41年頃)▶



高度情報化・工業技術専門化に向けて—情報科学分野の拡充と大学院開設による教育・研究の高度化—

平成 5年(1993年) 大学院工学研究科修士課程開設
平成 9年(1997年) 大学に情報工学部開設(4学科)
平成10年(1998年) 情報科学研究所開設
平成11年(1999年) 大学院工学研究科博士後期課程開設

新分野拡充のために新校舎建築(平成5年頃)▶



工業技術発展と環境の調和した持続可能社会に向けて—文系環境学部の新設で文理融合型大学へ—

平成13年(2001年) 大学に社会環境学部(文系)開設
高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更
平成17年(2005年) 短大の学科名を情報メディア学科とビジネス情報学科に変更
環境科学研究所開設
平成19年(2007年) 大学院社会環境学研究科修士課程開設

環境配慮と先端設備が同居した
新型キャンパスへ転換(平成17年頃)▶



開学50周年・九州No.1の教育拠点に向けて—大学改革のニーズに対応した教育・研究環境の構築—

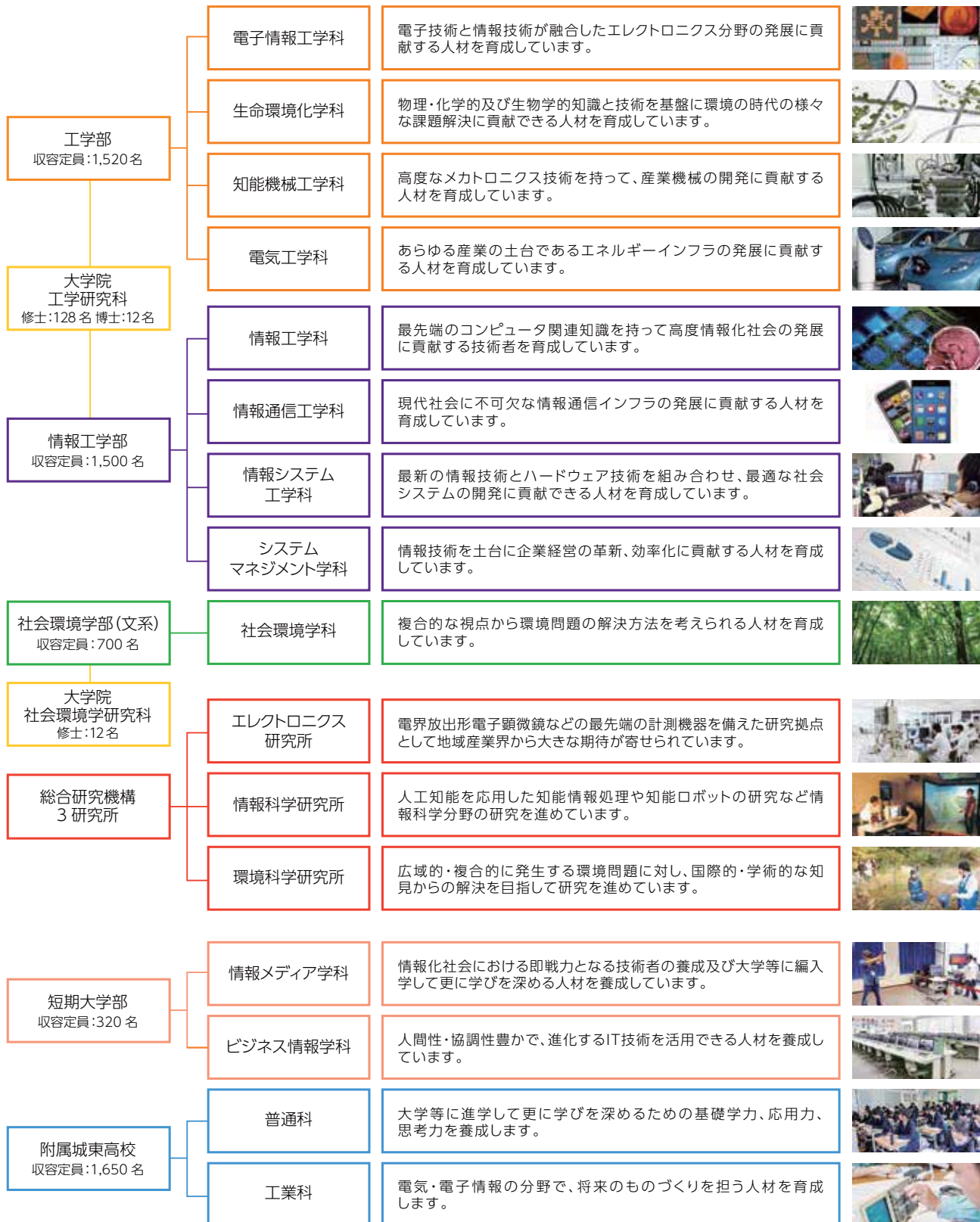
平成25年(2013年) 国際戦略室を設置<国のグローバル戦略への適応目的>
平成26年(2014年) 先端技術地域連携センターを設置<研究成果の地域社会への還元を目的>
大学・地域連携推進室を設置<外部連携による地域発展への貢献を目的>
平成27年(2015年) 大学の入学定員を830名から915名(工学部380名・情報工学部375名・社会環境学部160名)に拡大
教養力育成センターを設置<教養教育の見直しとその教育方法等改善を目的>
平成28年(2016年) 物質・エネルギーデバイス研究センターを設置<研究成果の地域社会への還元>
学長室を設置<学長を中心とした教学ガバナンス強化>
大学院工学研究科(修士課程)管理工学専攻を情報システム工学専攻とシステムマネジメント専攻に改組
環境教育・研究のフィールドとして
おとめが池を整備(平成27年4月)▶
平成29年(2017年) インキュベーションスタジオ設置<研究高度化・活活化への対応>
食品農薬品研究センター、電磁波計測センター、あまみず社会研究センターを設置<研究の高度化・研究成果の地域社会への還元>



「情報・環境・モノづくり」に対応し、大学3学部、大学院2研究科、併設短大、附属高校を設置

「情報・環境・モノづくり」の活動領域に対応して、大学は、工学部、情報工学部、社会環境学部の3学部9学科、大学院は工学研究科、社会環境学研究科2研究科を設置しています。

■ 学園全体の設置課程の概要 ※収容定員は平成30年度



いごごい

主要な取組成果

学園のプロフィール・各設置校の状況

学校改革の具体的な取組状況

バックデータ集

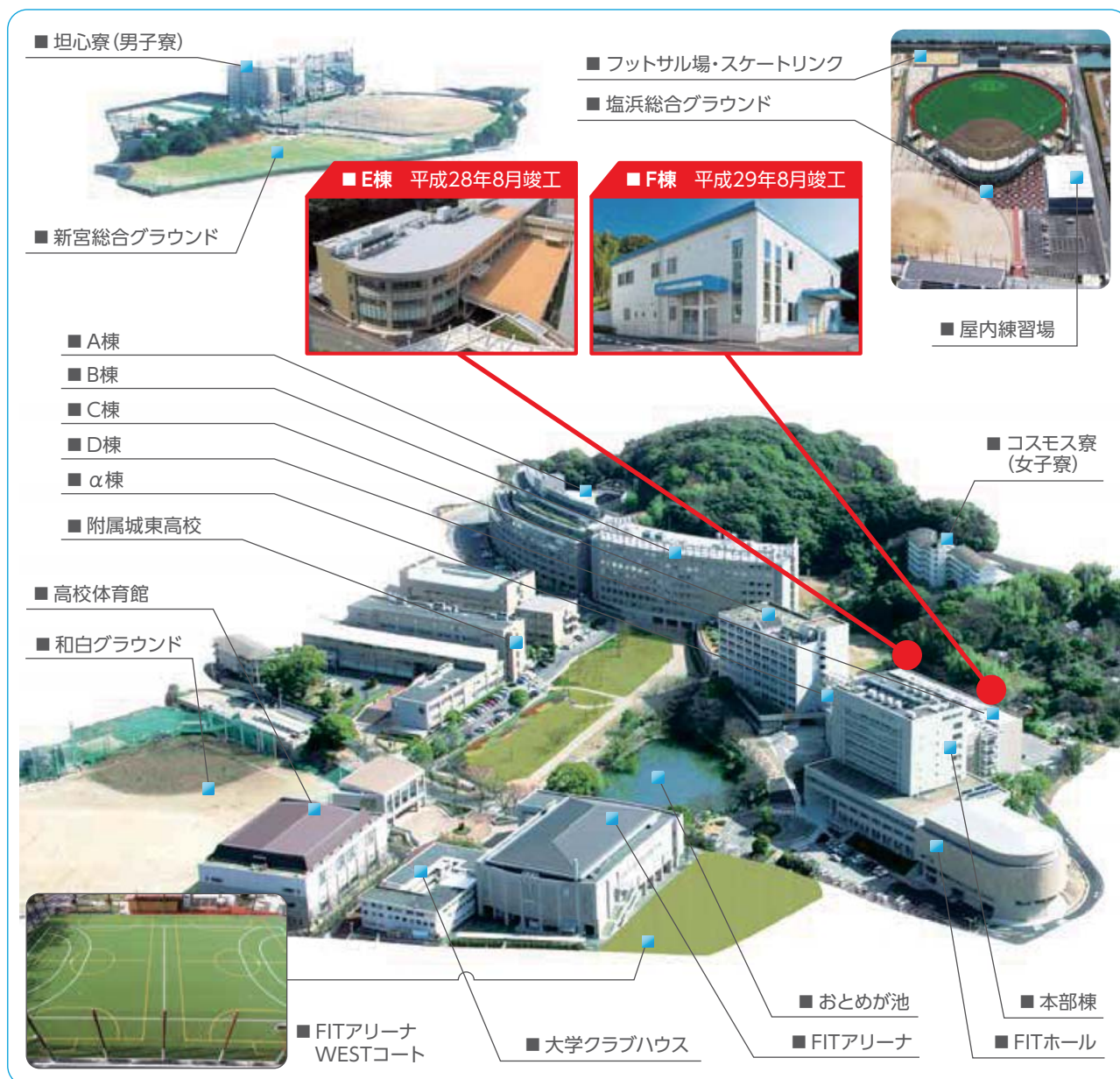
2. キャンパスの概要

**キャンパス全域の教育・研究機能の高度化が進展。
キャンパスライフの利便・快適性も、いっそう向上しました。**

平成9年から計画・段階的にキャンパスを整備してきました。α棟を起点に、A～D棟の教育4棟、FITアリーナ・ホール・スタジアム・セミナーハウスを整備し、前年度はE棟（FD・研究・学生サポート機能等）、当年度はF棟（研究・実験ラボ）が完成しました。教育・研究機能高度化、課外教育活発化、キャンパスライフの利便・快適性は、いっそう向上しました。

先進技術と自然環境が調和、学術・文化・スポーツが活発化するキャンパスを創造

先進工業技術・ICT技術・自然環境が調和したキャンパスを整備しています。おとめが池を中心に桜や櫛の並木、芝生広場、常緑樹林帯を配置し、「くつろぎ機能」をふんだんに織り込み、学びの場として良好な環境となっています。学術・文化・スポーツなど諸活動は活発化しています。



キャンパスライフをサポートする施設が充実、文化・スポーツ・地域交流がますます活発化

文化・スポーツ・地域交流の場として、FITアリーナ、FITホール、FITスタジアム、FITセミナーハウス等を設置しています。また、FITアリーナウエストコート、相撲場、BBQ施設など、学生のキャンパスライフをサポートする施設が充実しました。



FITアリーナ



FITホール



FITスタジアム



FITセミナーハウス



FIT Link (附属図書館)



エクステンションセンター



モノづくりセンター



FITアリーナウエストコート



相撲場



FIT BBQ



B棟学生ラウンジ



おとめが池遊歩道

▶ BBQ施設は開設半年で約1,200名(ゼミ・研究室等32団体603名、クラブ・サークル等17団体346名など、当初計画の2倍)の利用。学生・教職員間の親睦・交流が活発化しています。

施設等整備計画は順調に進捗、キャンパス全域の教育・研究機能はますます高度化

国・社会の大学改革ニーズに積極的に対応するため、キャンパス全域を再構築しています。学生の主体的学修促進を中核にした教育の質的転換、産業界等との連携、地域発展への貢献、グローバル化を促進し、「全国トップクラスの教育拠点」を目指しています。

(平成27年7月計画策定)

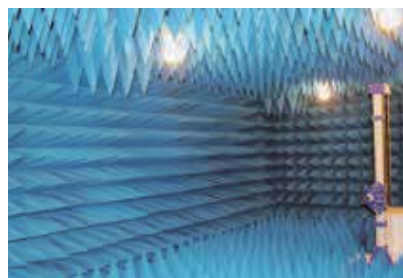
<キャンパス整備の主要な目的>

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 アクティブラーニングの拡大 | 5 研究高度化・実用化の加速 |
| 2 情報処理・情報編集技術の高度化 | 6 キャリア教育・グローバル化教育の高度化 |
| 3 ラーニング commonsの学習機能向上 | 7 地域社会・産業界と連携強化 |
| 4 キャンパスライフの快適性向上 | |
- ・その他「全国トップクラスの教育拠点の形成」に向けた上記7つの総合的目標の統合・補完的施策

■ 第三期施設・設備整備計画の進捗状況(平成29年度完工)



情報工学分野の学生デントラボ
(情報科学研究所インキュベーションスタジオ3)



九州最高レベルの高周波・電磁波実験が可能となる電磁波計測センターの「電波暗室」



教職員・学生・企業等外部との交流の活発化を目的としてBBQ施設を開設

▶ 平成31年度着工に向けて、城東高校の施設・設備整備計画(生徒数増に対応する校舎・体育館増築など)検討を継続しています。

3. 大学院の取組

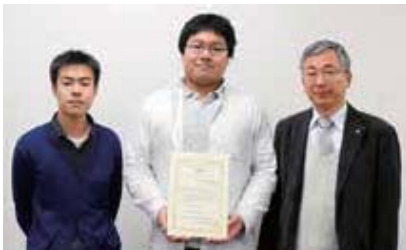
大学院の研究活動はいっそう活発化。高度な研究者・職業人を育成・輩出しています。

工学研究科(修士課程・博士後期課程)と社会環境学研究科(修士課程)を設置しています。科学技術の高度化・国際化・情報化・環境調和型社会に貢献できる高度な技術者・研究者を育成しています。学生の研究活動支援のサポートを数多く実施し、進路決定状況は良好でした。

学生の研究活動は外部から高評価。研究水準の高度化により進路決定状況も良好

教員の研究指導のもとで学生の研究活動は活発化し、学生の国内外での学会発表などが高く評価されました。また、学生の研究水準の高度化により、大学院生の進路決定状況は良好でした。

■学会表彰等



電子情報通信学会 I-Scover利活用コンテスト「優秀賞」情報通信工学専攻 高橋和生さん(朝倉東高校)、博士後期課程 槇俊孝さん(大村工業高校)と若原教授



物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会「優秀ポスター賞」生命環境科学専攻 末吉恵一朗さん(島原高校)と安樂信哉さん(国分高校)



日本化学会「低次元系光機能材料研究会」第6回サマーセミナー2017「優秀講演賞」生命環境科学専攻 加藤利喜さん(光陵高校)



国際会議 19th International Conference on Mechanism Science and Analysis [Best Paper Award] 知能機械工学専攻 宮村晶夫さん(玉名工業高校)と数仲教授



SICE SI2017計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会[SI優秀講演賞]知能機械工学専攻 後藤雅明さん(大分舞鶴高校)と木野教授(九州大学、山口東京理科大、熊本高専との共同研究)

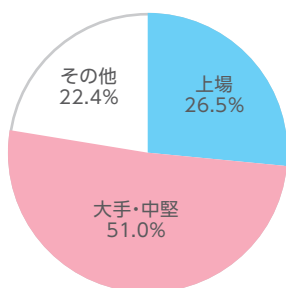


国際会議 JFPS2017 Fukuoka [Best Student Paper Award] 知能機械工学専攻 東島権弥さん(白石高校)

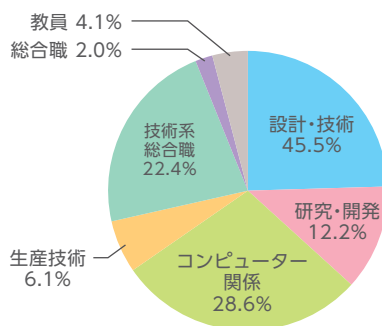
※上記以外にも多数の学会表彰を受けています。(詳細はP47参照)

■大学院の就職状況

■規模別就職状況■



■職種別就職状況■



就職率 **98.0%**
実就職率 **90.7%**

修了者数 58名
就職希望者 50名
就職者数 49名
進学者 4名

修学支援、研究活動のサポートを積極化

研究活動に集中し、研究成果を拡大できるよう、学部生学業優秀者奨励生制度・学業特待生制度・国内外学会発表時の交通費補助・海外派遣プログラム等の支援など多岐にわたるサポートを実施しています。

■ 学術交流を目的とする教員帯同型海外プログラム

海外の大学・企業等への訪問・交流を通じて、英語コミュニケーション能力の向上や海外研究者との共同研究への発展等を目指すプログラム

平成29年度は、ノッティンガム大学(英)、サンノゼ州立大学に5名ずつ派遣(約2週間)



イギリス・ノッティンガム大学での研究交流会(平成29年11月)



アメリカ・サンノゼ州立大学でのポスターセッション(平成29年11月)

■ 学部生学業優秀者奨励制度

本学の優秀な学部生が、経済的な理由で大学院進学を断念することがないように大学院修士課程在籍期間に奨励金を支給する制度。

サポート内容: 毎月8万円の奨励金支給(24か月)

採用者数: 各専攻2名(計36名)

▶ 平成28年度に「情報システム工学専攻」と「システムマネジメント専攻」を設置しました。これにより、全専攻が、大学の学部学科とつながり、学部との教育・研究活動の連続性が高まりました。

大学院キャリア形成プログラム、就活支援等のキャリア支援も充実

学生が、自らのキャリアについて考え行動する力を身に付けるために、様々な就職支援の取組を行っています。また、教員による企業訪問や教員帯同型工場見学などを積極的に行い、企業との交流を深めています。

■ キャリア関連のサポート内容



優秀な修士学生に対する大学院トップアップ就職講座



優良企業への指導教員帯同型工場見学

▶ 過去3年間の主な就職先一覧: 成蹊大学(教員)、日本電信電話(株)、(株)資生堂、三井金属鉱業(株)、酒井重工業(株)、(株)タムラ製作所、アイコム(株)、ジャパンセミコンダクター(株)、(株)ケーヒン、京セラ(株)、三和シャッター(株)、サイバーコム(株)、ソニー(株)、富士通(株)、(株)ダイショー、大阪製鐵(株)、住金日鉄鋼板(株)、(株)富士通エフサス、宇宙技術開発(株)、ニチバンメディカル(株)、JFEシステムズ(株)、古河電気工業(株)、(株)トヨタ車体研究所、西部電気工業(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) ほか

4. 短期大学の取組

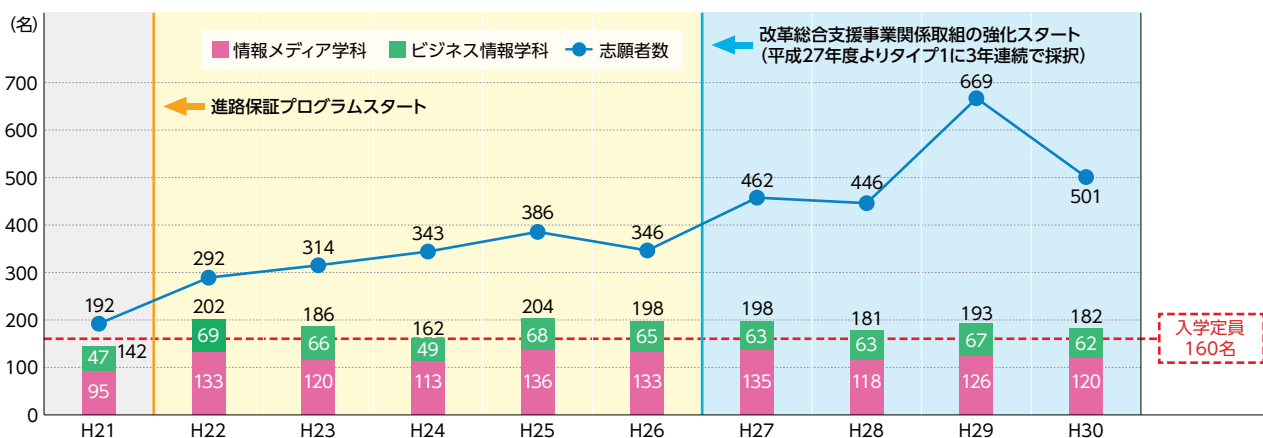
短大部の入学志願者は大幅増加、入学者確保も安定、進路決定は良好さを継続しています。

教職員一人ひとりが、学生一人ひとりに、「親身になって」「親代わりに」「厳しく」関わり、その教育スタイルや学生の成長が企業や地域等から評価され、安定的な入学者の確保や進路決定の良好さにつながりました。

入学志願倍率は入学定員の3.1倍を確保、進路決定率は90.6%と高水準を維持

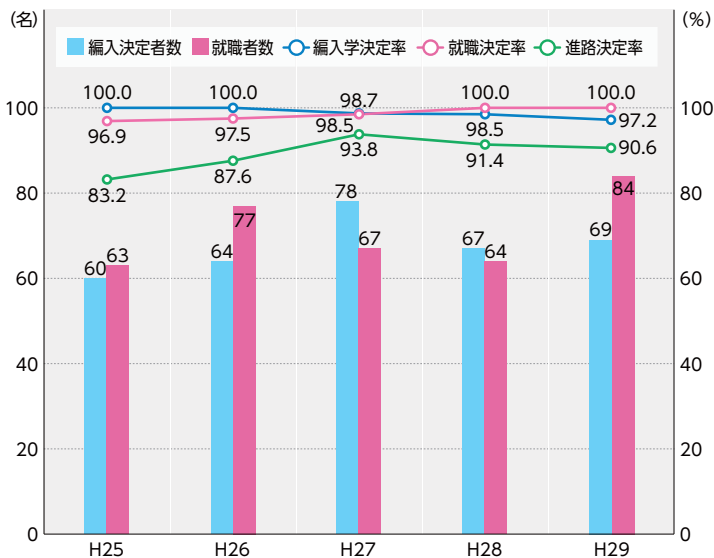
平成30年度入試の志願倍率は定員の3.1倍、入学者が9年連続で定員を上回る状況は、「全国短期大学の約7割が定員割れする中で健闘」と言えます。進路も就職、編入学ともに良好な水準を維持しています。

■ 志願者・入学者推移



▶ 教育改革・改善の取組を契機に、志願者は増加傾向となっています。

■ 進路決定状況推移



編入学決定率 97.2%
就職率 100.0%
進路決定率 90.6%

	H25	H26	H27	H28	H29
卒業者数	149	169	162	162	171
編入決定者数	60	64	78	67	69
就職者数	63	77	67	64	84
編入学決定率	100.0%	100.0%	98.7%	98.5%	97.2%
就職決定率	96.9%	97.5%	98.5%	100.0%	100.0%
進路決定率	83.2%	87.6%	93.8%	91.4%	90.6%

4年制大学合格(編入学)等の進学実績はさらに向上(進学の外部評価向上)

約4割の学生が4年制大学への編入を目指しています。希望する編入先に応じたプログラムを多数用意し、科目指導や面接指導を徹底して行ったことが、結実しています。

■ 編入教育プログラム

英語、数学、物理、小論文などの集中課外講座、個別添削指導、外部試験(TOEICなど)活用など

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	編入支援
国公立大学 (理系・文系) プログラム	正規科目 基礎講座 (物理・数学・英語)	先取り履修 志望校別 編入対策講座 (物理・数学・専門・英語・TOEIC)		弱点強化講座 (編入先別)	<ul style="list-style-type: none"> ● 編入支援室の設置 ● 編入支援スタッフの常駐 ● 編入説明会の実施 ● 志望大学別課外講座の実施 ● 長期休暇課外講座の実施 ● 面接指導・訓練 ● 個別口頭試問対策 ● 志望理由書の添削 ● 志望大学別個別指導 ● 正規科目によるサポート ● 近郊大学編入説明会の実施 ● 遠方交通費支援 他
福岡工業大学 プログラム	基礎講座	工学部 科目等履修生 編入対策講座 (学科毎)	情報工学部・社会環境学部 科目等履修生 直前対策講座 (学科毎)	直前対策講座(社会環境学科) 弱点強化講座(学科毎)	
私立大学 (理系・文系) プログラム	基礎講座	志望校 選択ガイダンス	直前対策講座(志望校別)		

- ▶ 平成30年度合格大学一覧(国公立大学):九州工業大学、鹿児島大学、島根大学、琉球大学、高知大学、宇都宮大学、山梨県立大学、長野大学、合計9名(延べ数)
- ▶ 平成31年度合格大学一覧(国公立大学):九州工業大学2名、佐賀大学2名、鹿児島大学、豊橋技術科学大学3名、岐阜大学、香川大学2名、合計11名(平成30年7月31日現在)

社会人基礎力育成が企業ニーズに適合。就職率100%を達成(就職の外部評価向上)

社会人基礎力を養成するカリキュラムと徹底した個別指導、「企業が求める人材ヒアリング」実施など、充実した支援体制のもとで高い就職実績を実現しました。

■ 就職教育プログラム

希望職種別キャリア教育、ゼミ単位の特別支援、就職に有用な資格取得支援など

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	就職支援
共通プログラム	業界研究	履歴書添削・面接の指導 能力適性検査(SPI)対策	検定対策講座	卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア系科目の充実 ● 学内企業説明会の開催 ● SPI試験対策講座の開講 ● 面接指導・訓練 ● インターンシップのカリキュラム化 ● 履歴書・エントリーシートの添削 ● 資格取得の促進 ● 遠方交通費支援 他
情報系・メディア系 プログラム	専門基礎 修得	ITパスポート CGエンジニア検定 マルチメディア検定 取得	基本情報技術者 取得	卒業研究	
ビジネス系 プログラム	専門基礎 修得	秘書検定3級 医療事務3級 取得	日商簿記3級 秘書検定2級 ITパスポート 取得	日商簿記2級 秘書検定準1級 取得	

- ▶ 過去3か年の主な就職先: JR九州システムソリューションズ、ANAテレマート、不二精機、USEN、福岡中央銀行、大分信用組合、日本郵便、トヨタカローラ博多、クエスト、コネクシオ、日本ステリ、イオンディライト、マックスバリュ九州 など

5. 附属城東高校の取組

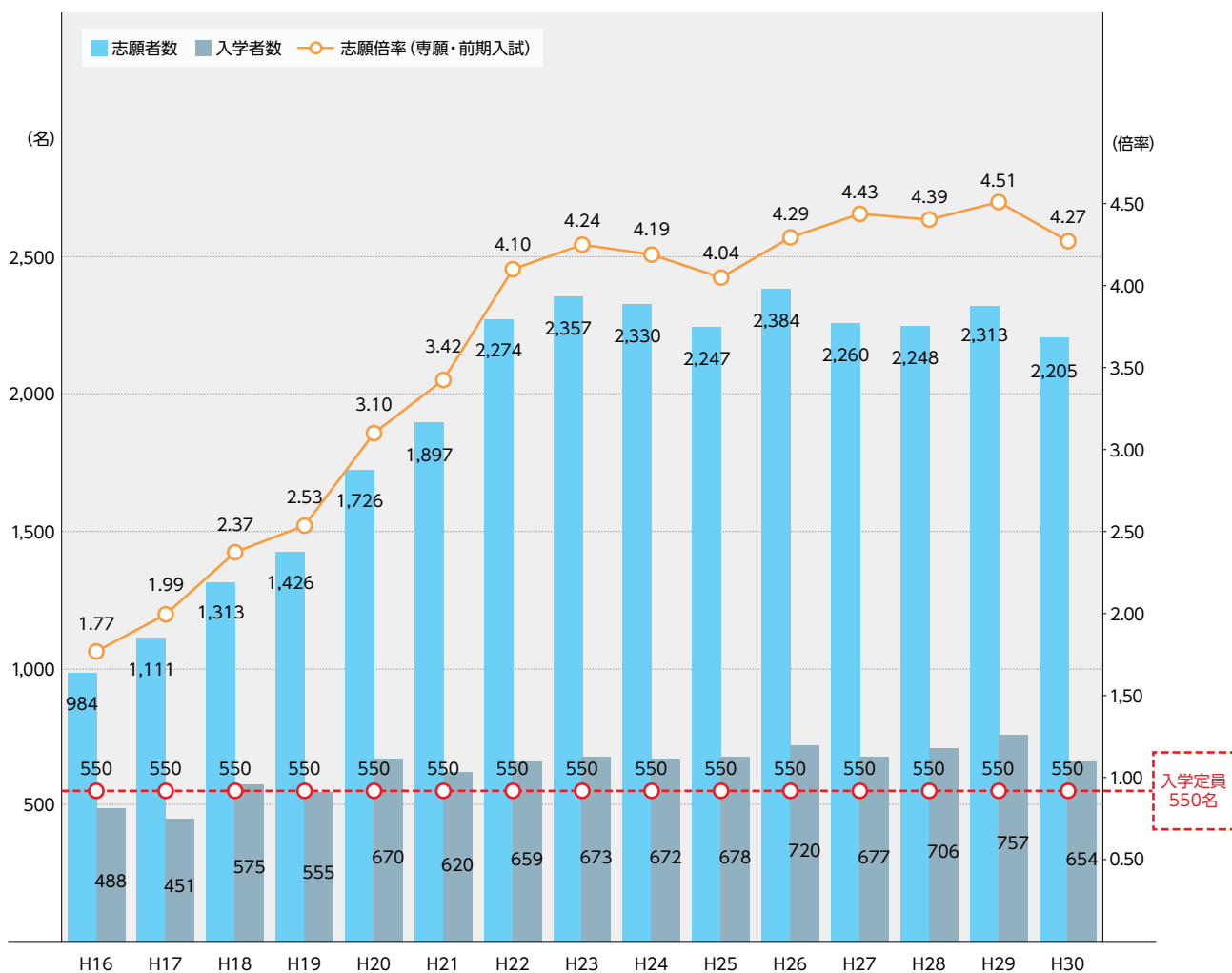
城東高校は、進学・就職・課外活動の実績が継続して良好。入学志願者・入学者は高位安定的に推移しています。

学校改革元年(平成12年)以降、「進路保証」「資格取得支援」「部活動活性化」に重点をおき、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育と生徒指導を行っています。学業からスポーツまで、多岐にわたり活動は活発化し、進学・就職・課外活動のいずれも大きな成果が生じています。

入学志願者・志願倍率は県下トップクラス、目的意識の高い生徒を確保

入学志願者は、改革元年(平成12年)以降右肩上がりの増加傾向です。平成26年度には「福岡県トップ」(2,384名)となり、以降、高水準を維持しています。平成30年度入試は2,205名を確保し、志願倍率も「福岡地区3位」と高水準でした。

■ 志願者・入学者・志願倍率推移



▶ 学校説明会参加者(生徒)は3,052名と高水準(平成24年度から6年連続3,000名超)を維持

課外活動は全国トップクラス、学力・社会人基礎力を高める土台を形成

部活動は人間性・社会性を育む重要な教育の機会として指導に力を注いでいます。当年度も、ダンス部の世界大会優勝(3回目)、吹奏楽部の全国大会銀賞受賞など、学術・文化からスポーツまで、国内外で優秀な成績を修め、いっそう活発化しています。



ダンス部 American Dance/Drill Team National/International USA 2018 HIPHOP部門 優勝



吹奏楽部 第65回全日本吹奏楽コンクール銀賞受賞



第25回高校生ロボット相撲大会 全国大会ラジコン型第3位 篤海宏樹さん、藤田悠貴さん



科学部「地学スペースデブリ」(溝口瑛斗さん・杉本晋一朗さん) 第32回福岡県高等学校総合文化祭 自然科学部門 最優秀賞受賞(全国大会出場)



ITプロジェクト(松尾雄斗さん・尾形大輔さん・田上晴空さん・原田樹さん・隈本恵次郎さん) 第9回全国高等学校情報処理選手権 団体部門特別賞



放送技術部 松本空さん 第64回NHK杯全国高校放送コンテストアナウンス部門 入選



落語同好会 第9回ひむかの国こども落語全国大会出場(優秀賞受賞・市川晋吉さんなど)

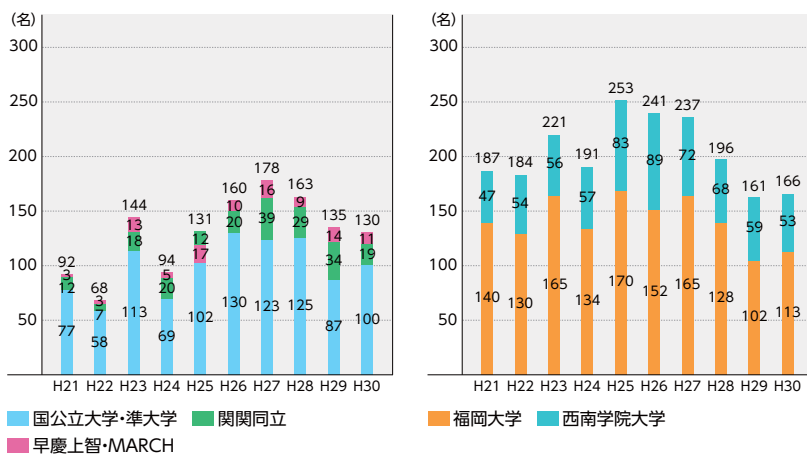


空手部 第37回全国高等学校空手道選抜大会 女子団体組手出場

「国公立大100名合格」「就職率5年連続100%」で目標達成

進学対策は、難関大特別学習会、個別指導など、種々の進学指導の結果、合格実績は「国公立大は目標達成、難関私大は高位安定」と良好でした。就職対策も「就職率100%」に向けた様々な支援を行いました。特に、資格取得実績(国家資格、英検、電気工事士など)は、過年度最高(1,839名)となりました。

■合格者推移



■就職状況推移

	H25	H26	H27	H28	H29
就職対象者	50	72	84	68	77
就職希望者	50	72	84	68	77
就職希望率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職者	50	72	84	68	77
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

就職対象者: 卒業生数-進学者数等

▶ キャリア・グローバル化・ボランティア教育が、多様な生徒の育成に繋がりを、進学・就職実績の向上に貢献しています。



グローバル教育: 柔軟な感性をもち、多様な価値観を受入れながら活躍できる人材を育成するため、学内外で様々なグローバル教育を推進。ニュージーランド語学プログラム(期間: 2週間~11ヶ月、40名参加)などを実施。



世の中研究会: 講師に福岡県職員、企業経営者、教員などを招き、講義・ワークショップを通じて、生徒自身が職業についての課題を発見し、解決策を考えるPBL型講座。

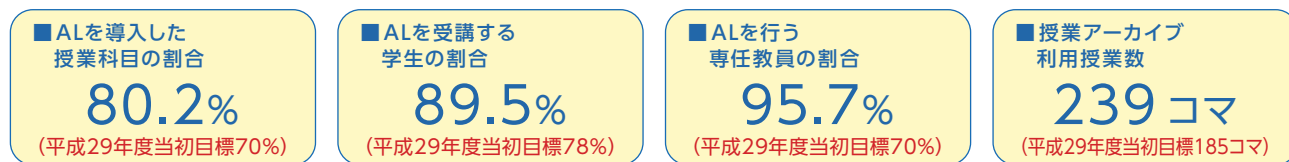


ミニふくおか: 福岡市主催のまちづくりイベント「ミニふくおか」のボランティアスタッフとして参加(約20名)。小・中学生(1,500名)の仕事体験などのサポートを実施。

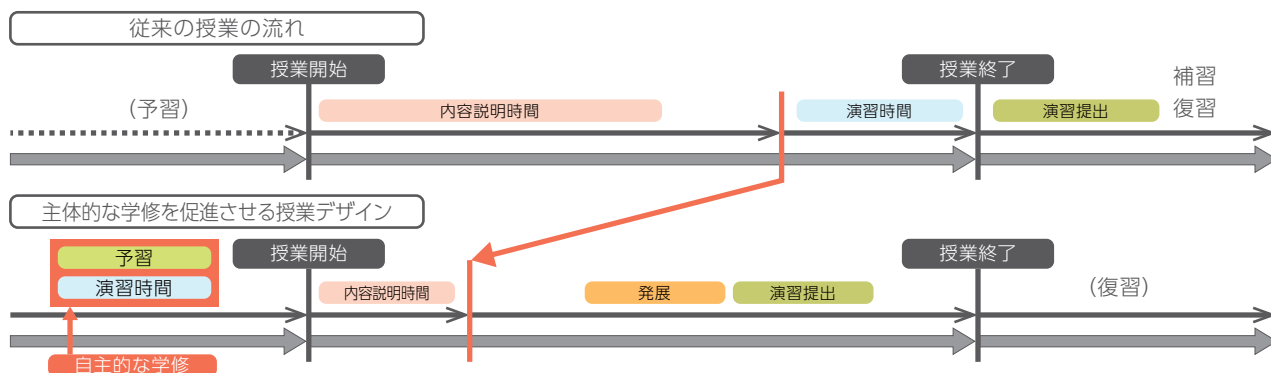
1. 教育改善の取組

「新しい学力」育成に向けて、アクティブラーニング (AL) を積極化

AL型授業推進プログラムは、教育技術開発ワーキンググループの活動を起点として全学展開を図り、講演会・研修の実施等による情報の共有、授業アーカイブシステム等の取組などによって大きく進展 (平成26年度文部科学省大学教育再生加速プログラム採択) しました。



■「授業アーカイブを活用した反転授業」のイメージ(福岡工業大学「2017FD Annual Report AL特集号」より)



▶ 反転学習という授業スタイルは、本学のカリキュラムに適したものとして事業計画当初の想定以上に普及しています。特に、事前の課題や実験手順等の確認が必要な場合は、学生が積極的に視聴しています。

推薦入学者を対象とした入学前教育をe-learningで積極化

推薦入学者を対象に、入学までの学習習慣の維持と基礎学力の補強を目的として入学前教育を実施しています。タブレット端末等を使用して自宅等で学習できる仕組みを導入し、対象者のほぼ全員が活用しました。

■入学前教育の概要

1. 目的	入学までの学習習慣の維持と基礎学力の補強・向上
2. 学習期間	約2ヶ月(1月～3月)
3. 対象者	推薦入学合格者(約500名)
4. 実施科目	工学部・情報工学部：数学 社会環境学部：日本語表現法・小論文
5. 実施形態	e-learning等により自宅等で学習 (今年度からスマートフォン、タブレットでの学習環境を導入)

■入学前教育e-learning実施フロー

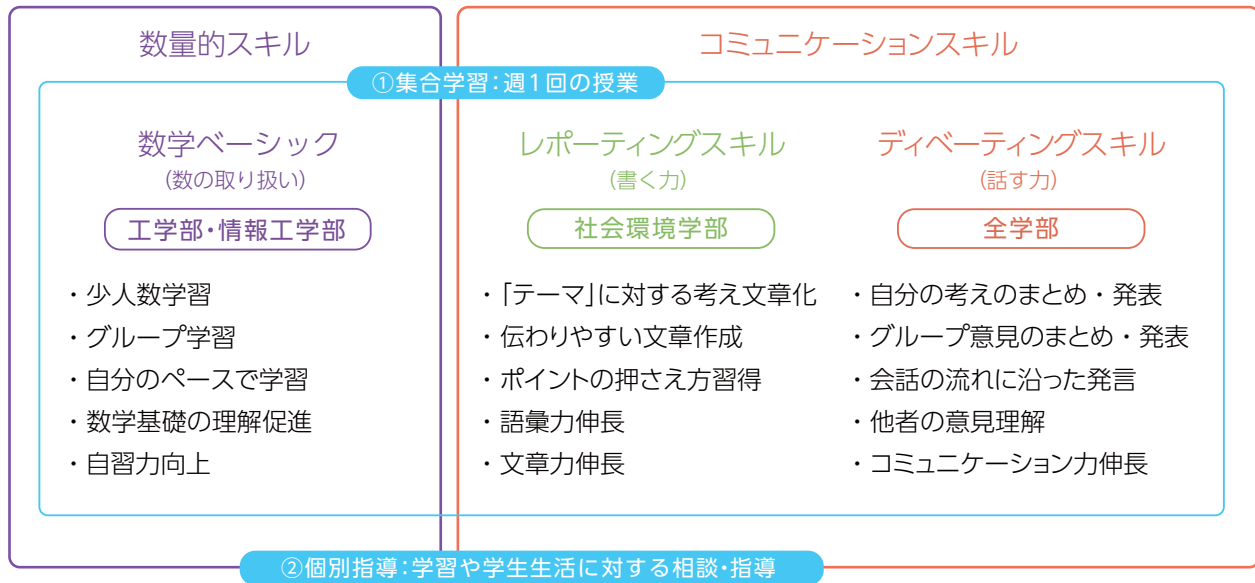


※学習結果データは、各学科で初年次教育に活用する。

フレッシュマンスクールで「基礎学力補完教育」を積極化

新入生の学習サポートとして、基礎学力養成のための「集合学習」と学習相談や悩みに対応する「個別指導」を行っています。1年間の課外カリキュラムで大学での学習に必要な力と自ら学修する習慣を身につけています。

■ 学習分野とそれぞれの特徴



▶ 「数学ベーシック」、「レポートニングスキル」を受講した学生は、受講後は数学・国語基礎学力が向上しています。

全学をあげた教授・教育方法の点検・評価・改善活動を積極化

工学部では「講義PDCA」、情報工学部では「教育改善PDCA」を実施し、学科ごとに対象授業の評価・検証を行い、次年度での改善に繋げています。また、全ての学部でFD研修会を実施し、活発な議論を行っています。

■ 教育改善の取組状況



授業アーカイブの導入と活用(平成27年7月から運用開始)



FD研修会(新任教員FD研修会)



AL実践研究会(年2回以上)の開催(平成30年3月)



ファカルティ・ディベロッパー(FDer)の認定(平成30年1月) 松木教授・藤井教授



FD Café 第13回「アクティブ・ラーニングについて話そう!」(平成29年9月)



クラスサポーター(CS)育成と活動支援(CS合宿:平成30年3月)

2. 研究高度化の取組

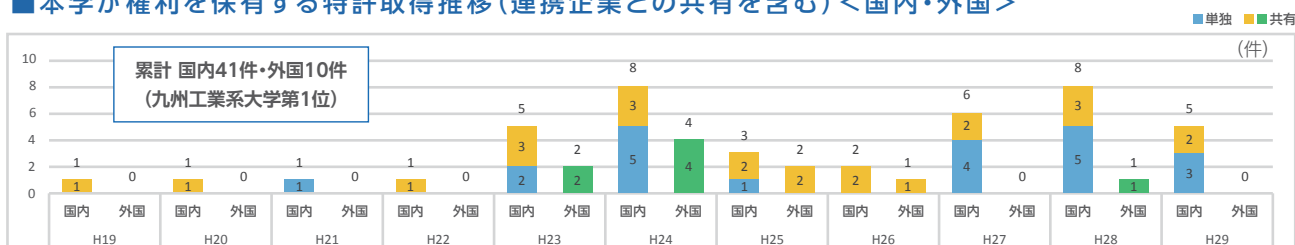
国(独立行政法人)や企業との受託・共同研究拡大、学术交流を促進

研究活動で得られた研究成果・技術情報を積極的に公開・発信し、受託・共同研究の拡大や研究交流の進展を支援しています。近年、企業等外部との受託・共同研究は拡大しており、研究成果の実用化や権利化(特許登録)が増加しています。

■平成29年度に特許登録された発明の状況 国内5件

No.	特許番号(登録日)	発明者	共有者	発明の名称
1	6146730 (H29.5.26)	電子情報工学科 盧 存偉 教授		オーダーメイドの装着物を生産する方法、支援システム、プログラム及び記録媒体
2	6178691 (H29.7.21)	知能機械工学科 満田 武人 名誉教授	共和技研(株)	ボール発射装置
3	6180008 (H29.7.28)	情報通信工学科 内田 法彦 教授 重留 天斗、新谷 亮弘		静体状態に応じてデータパケットの送信優先度を制御する携帯端末、システム及びプログラム
4	6195242 (H29.8.25)	知能機械工学科 加藤 友規 准教授	東京瓦斯(株) 国立大学法人鹿児島大学	特性評価試験装置
5	6202498 (H29.9.8)	生命環境化学科 宮元 展義 准教授 小川伸也、三原屋淳史		無機ナノシート分散液、及び無機ナノシート分散液の製造方法

■本学が権利を保有する特許取得推移(連携企業との共有を含む) <国内・外国>



▶ 難易度の高い科学技術振興機構(JST)「マッチングプランナープログラム」等の採択など、今後の社会的・経済的波及効果が期待されます。

文部科学省の大型プロジェクト研究事業に数多く採択、研究成果の実用化を促進

医療技術への応用が期待されるナノ素材を活用した研究開発や大規模津波予測技術など、研究成果の実用化に向けて学部学科横断的にプロジェクト研究を進めています。

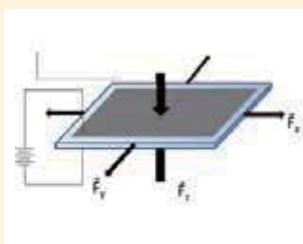
■文部科学省大型研究補助事業の近年の採択状況

■研究テーマ:物質・エネルギーデバイス研究センター整備事業

■採択年度:平成27年度

■期待される用途や効果

無機ナノシートを複合化した新開発素材によるウェアラブル端末や歩行・波力発電への展開が期待される革新的エネルギーデバイスの開発



■研究テーマ:先端計測技術研究センター整備事業

■採択年度:平成25年度

■期待される用途や効果

マイクロ波レーザー計測と画像センサ計測を組み合わせた4次元総合解析による津波予測システムの開発



■研究テーマ:ハイテクリサーチセンター整備事業

■採択年度:平成17年度

■期待される用途や効果

微生物とオゾン分解フィルターを組み合わせた排水浄化システムを開発し、酒類製造プロセス等で発生する廃棄物浄化に活用



■研究テーマ:次世代マイクロ/ナノ金型開発センター整備事業

■採択年度:平成16年度

■期待される用途や効果

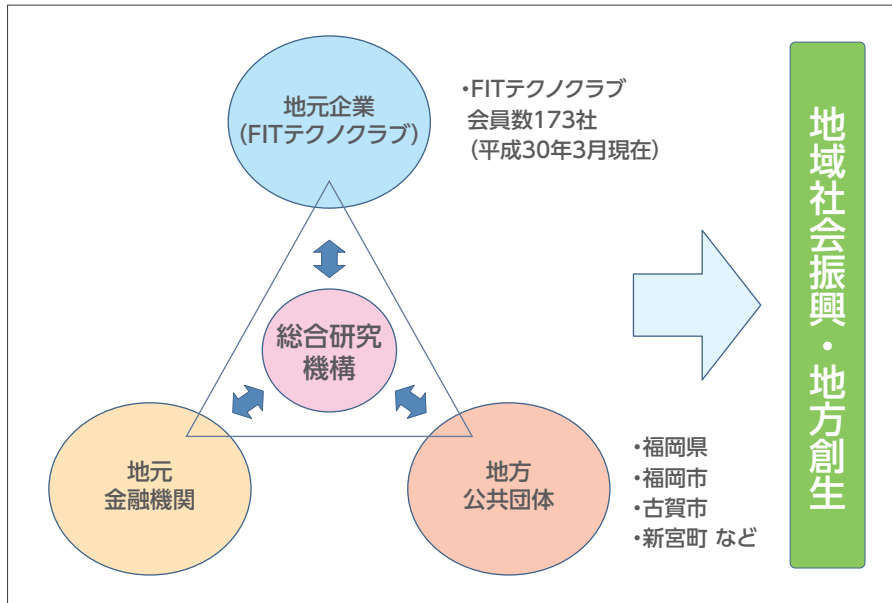
ナノレベルの精密加工技術を開発し、自動車産業等で求められる精密金型製作に活用



産官学学術ネットワークを形成。産業界・地域社会貢献を積極化

地域社会や企業の発展に貢献することの重要性から、地元産官学とのネットワークを形成しています。研究技術の高度化、高度人材の育成を通じて、地域社会への還元に努めています。

■研究活動推進ネットワーク



■オープンラボ



産業界等外部との連携と共同研究の促進

■リサーチcommons



異分野との研究交流を促進

▶ オープンラボに東証一部上場企業が入居。本学研究者との共同研究着手など、地元産官学との連携(受託・共同研究等の研究交流)がますます活発化する見通しです。

研究予算制度の拡充、研究高度化・研究交流を財政的に支援

公正・厳格な審査制度のもとで、有望な研究計画に対して研究費の支援を行っています。若手教員・新任教員スタートアップ、学際連携、大型プロジェクト等、重層的な研究予算を設けて研究者の研究意欲に応えています。

■平成29年度 若手・新任教員スタートアップ支援 8事業

	研究代表者	研究部門	研究課題
	(若手教員研究高度化支援)		
1	竹之内 宏 助教	知能メディア	ファジィ推論を用いた感性検索エージェントモデルにおける数値シミュレーションにおける検証
2	田島 大輔 准教授	関 連	キッチン質からなる水産系廃棄物を応用した高エネルギー密度スーパーキャパシタ開発のための基礎研究
3	下戸 健 准教授	システム科学	画像濃度を用いた細胞凝集塊形態特性の評価の検討
4	樋口 貴俊 助教	社会環境	軌道や速度が異なる飛翔球に対する熟練野球打者の認知プロセスと打撃動作の解析
5	家形 諭 助教	電子工学	反強磁性金属IrMnを用いた静磁波反射器の開発
	(新任教員スタートアップ支援)		
1	鈴木 恭一 准教授	電子工学	電界誘起トポロジカル絶縁体実現に向けて
2	鞆田 顕章 助教	生産工学	金属材料の内部摩擦を考慮した革新的振動シミュレータの開発
3	岩崎 淳 助教	システム科学	NIST乱数検定ツールの検定項目間独立性に関する研究

■平成29年度 3研究所公募研究事業 36事業

	研究代表者	研究部門	研究課題
	(エレクトロニクス研究所 13事業) 一部掲載		
1	盧 存偉 教授	電子工学	20Km遠距離悪天候撮影画像に基づく津波の計測と到達時間予測
2	数仲馬恋典 教授	生産工学	新幹線車両用横コイダルダンパに関する研究
	(情報科学研究所 15事業) 一部掲載		
1	前田 洋 教授	情報応用	分散性および非線形性を有する誘電体媒質を含む導波構造の伝送特性の数値解析、並びにその信号処理への応用に関する研究
2	徳安 達士 教授	システム科学	内視鏡手術VRシミュレータの開発
	(環境化学研究所 8事業) 一部掲載		
1	森山 聡之 教授	自然環境	IoTと360VRを活用した環境防災に関する研究
2	中川 智治 教授	社会環境	地理情報システムを利用したグローバルな船舶位置情報のモデル化による国際海洋法研究

3. 就職支援の取組

学生の就活を教職協働の全学的な支援体制でサポート

それぞれの学科毎に担当の教職員を配置して、学生の能力・適性を把握し、好適企業とのマッチングを実施しています。また、学生の就職活動状況を把握して適時適切なアドバイスと強力な後押しを行っています。

■「個」に重点を置いた就職支援体制



多様な就活支援プログラムで様々な職業に対して学生をサポート

就職希望者全員を対象とした就職活動訓練会を5回、就職関連ガイダンスを10回開催し、様々なプログラムで学生の就職活動を支援しています。また、遠方での就職活動に対する経済的な支援も実施しています。

■就職活動訓練会

- ① 職務適性診断
- ② 自己分析・PR講座
- ③ 履歴書対策 など

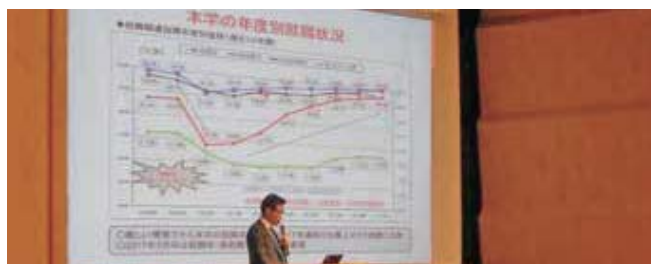
■就職関連ガイダンス

- ① 就職ガイダンス
- ② 保護者ガイダンス
- ③ 業界・業種・職種別ガイダンス
- ④ 面接対策 など

■その他の支援

- ① 県外での就活交通費支援
- ② プラスワンプロジェクト(既卒支援)

■保護者ガイダンス



早期の就職支援、就活状況の理解を促す。大学3年生、大学院・短大1年生の保護者約550名が参加(平成29年5月)

■企業交流会でのポスターセッション



東京・大阪の大手市場・中堅企業約50社が参加(平成29年11月)

学生ニーズに対応し、インターンシッププログラムを充実・多様化

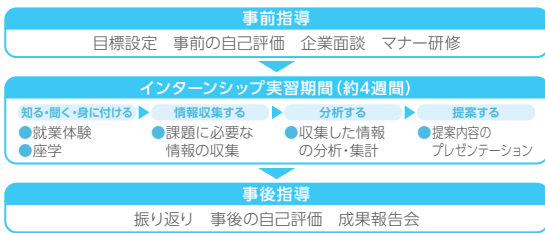
正課「就業実習」では3種類のプログラムを用意して多様な学生のニーズに対応しています。また、課外では、短期のインターンシップに積極的に派遣したほか、海外での課題解決型プログラム(学科単位で計画・学生選抜)支援も実施しています。

■「就業実習」(課題解決型・キャリアスコーププロジェクト型・仕事理解型)概要

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム	志向する力	キャリア形成						
	共働する力	日本語表現	コミュニケーション基礎					
	解決する力			技術者論理				
	実践する力			就業実習			卒業研究	
就職支援の取組	目的意識	・全員面談 ・学生生活プラン指導 ・挨拶・マナー指導						
	目標設定				・個人面談 ・学科別ガイダンス			
	就職活動				・個人面接・マナー指導	・SPI対策講座 ・OB企業人ガイダンス ・保護者ガイダンス ・履歴書添削指導・模擬面接・集団面接練習会 ・学内合同企業説明会・学内単独企業セミナー・就活交通費支援		

■課題解決型インターンシッププログラム

企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。



■海外課題解決型プログラム(電子情報工学科・情報システム工学科)



電子情報工学科(学部生・大学院生)ハノイ理工科大学(ベトナム)で行われた、「グローバルに活躍するリーダーを育成するプログラム」の取組(芝浦工業大学との連携事業)

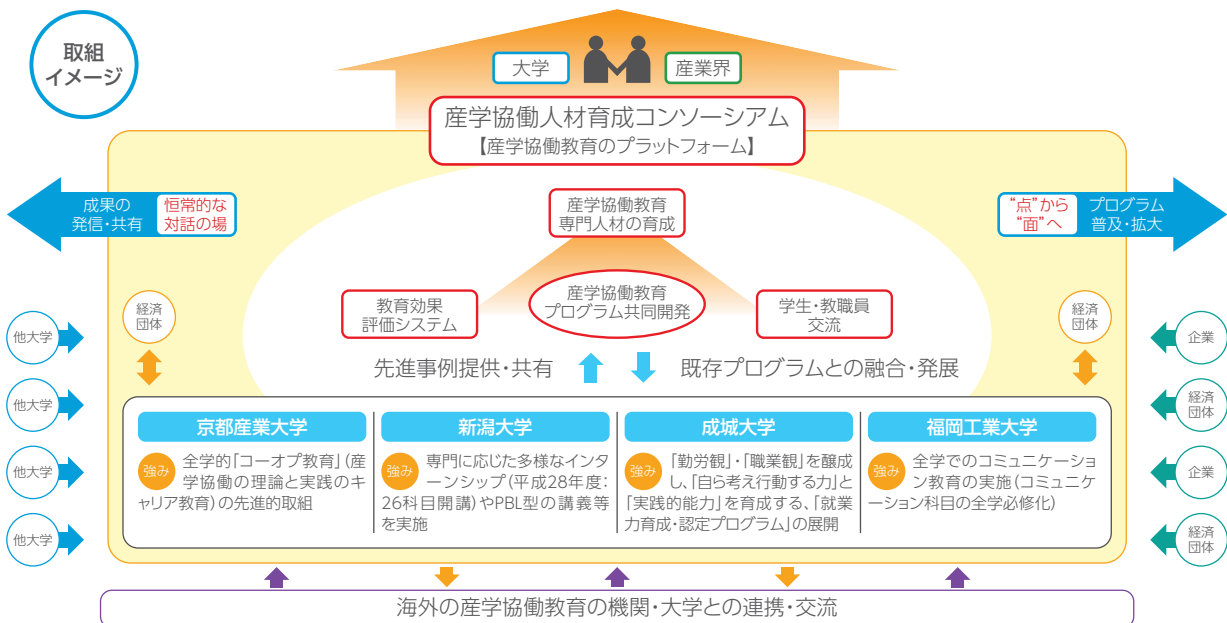


情報システム工学科(学部生・大学院生)ペトロナス工科大学(マレーシア)サマープログラムに参加し、国内外の学生と交流することによって「自分で考え行動することの重要性」を体感し、主体性とグローバル意識を身につけるプログラム

大学間連携共同教育推進事業は、文部科学省の最高評価。キャリア教育を高度化

4大学(京都産業大学(代表校)、新潟大学、成城大学、本学)共同で「産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成」事業を進めてきました。この事業で開発した産学協働プログラムとその評価システムを、本学のキャリア教育に取り入れ、発展させています。

■「産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成」事業概要



いざこざ

主要な取組成果

学園のプロフィール・各設置校の状況

学校改革の具体的な取組状況

バックデータ集

4. ラーニングサポートの取組

学生の多様な学修スタイルに対応、グループ・個人学修、調査・研究をサポート

ICTを活用した先進的図書館「FIT Link」は、従来の図書館機能の強化に加えて、アクティブラーニングやクリエイティブな活動に対応する環境が整っています。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど多様な学生の学修スタイルに対応しています。

■先進的図書館「FIT Link」フロア構成



FIT Link 5F Silent Floor

高度な調査・研究に集中するための「超静穏環境」を整備

FIT Link 4F Quiet Floor

パーソナルな学習環境として、「静穏」な学習空間を整備



FIT Link 3F Active Floor

アクティブラーニングの拡大に向けて、透明性・開放性の高い学習空間を整備

- ・利用者数は、改装前の約2倍(延19万人)
- ・Web閲覧数は、改装前の約1.1倍(延20万回)

■グループワークエリア (3F)



学生は授業課題・資格取得対策、学生同士のコミュニケーションなど多様に活用しています。

■クリエイティブ・ブース (3F)



学生は高度ICT・電子メディアを積極的に活用し情報処理・編集、プレゼンテーション資料などを作成しています。

高度ICT教育環境を充実。学生の自発的学修や創作活動をサポート

高度ICT研究・実験・教材開発拠点「クリエイティブラボ」、高度ICT教育対応「最先端PC教室」、学修スペース「IT commons」を整備しました。授業課題・資格取得対策・創作活動等、学生の諸活動はいっそう活発化しています。

■高度ICT教育・研究環境整備の状況

高度ICT教育に対応するPC群



最先端PC教室 (B31教室)

クリエイティブ・ラボ



学生はクリエイター仕様のハイスピークPCを積極的に活用

超高速ネットワークシステム



一般家庭の100倍の処理能力をもつPCサーバー

IT commons



学生は授業課題などに積極的に活用

- ・IT commons 利用者数 11,456人(平均利用時間2.0h/人)
- ・クリエイティブ・ラボ 利用者数 4,002人(平均利用時間2.9h/人)
- ・クリエイティブ・ブース 利用者数 15,740人(平均利用時間3.3h/人)

▶平成30年度にIoT、AI、ビッグデータ等の新たな技術に対応するために、ICT環境の全面リニューアルを実施する予定です。

学生のモノづくり意欲に全国屈指の創造空間で対応、創作力の習得をサポート

学生の創造力や創作意欲に対応するためモノづくりセンターを設置しています。当年度は情報モノづくりセンター(i-Tech LAB)を新設しました。学生主体のプロジェクト活動(自主研究・創作活動・地域貢献活動等)は、いっそう活発化しています。

■モノづくりセンターのプロジェクト

学生89名がメンバー登録



二足歩行ロボット



ソーラーカー



手作りアクセサリ



ロボット相撲



ビオトープ



ロボットコンテスト

■活発化が期待されるi-Tech LABでの活動



日本産業技術教育学会「第12回技術教育創造の世界発明・工夫コンテスト」教材開発部門「特別賞」受賞 FITポケットラボの情報システム工学科 手島星さん(鞍手高校)・高山篤史さん(沖学園高校)



第7回サイエンス・インカレにおいてFITポケットラボの4チームがファイナリストに選出



同左、奨励表彰受賞 情報工学科 斎藤大和さん(福岡舞鶴高校)・多田信洋さん(立花高校)のポスター発表(ファイナリスト)



第7回サイエンス・インカレシステムマネジメント学科 青木咲耶さん(小倉西高校)のポスター発表(ファイナリスト)



同左、情報システム工学科 安部壮亮さん(昭和学園高校)・平尾泰誠さん(城東高校)のポスター発表(ファイナリスト)



同左、情報システム工学科 高山篤史さん(沖学園高校)・手島星さん(鞍手高校)のポスター発表(ファイナリスト)

▶平成30年度にモノづくりセンターの活動活発化に向けて、新たなプロジェクト活動を立ち上げる予定です。

学生の自己啓発意欲を刺激、「FIT資格取得支援講座」でサポート

電気通信系難関国家資格対策講座、TOEIC講座、公務員講座、SPI対策講座、環境・流通系講座、IT関連(基本情報技術者、ITパスポート)講座等、資格取得や就職対策等の講座を約60講座開講し、学生の啓発意欲に応えています。

■エクステンションセンターを利用した資格取得の状況(平成29年度)

資格・試験名	受験者数(名)
Microsoft office Specialist(MOS)	393
うち、学科等専門科目連携	217
ITパスポート	113
うち、情報システム工学科単位要件	38
うち、システムマネジメント学科単位要件	44
CAD 利用技術者試験(2級)	10
バイオ技術者認定試験(上級)	1
“(中級)	8
応用情報技術者試験(AP)	4
基本情報技術者試験(FE)	118
情報セキュリティマネジメント	19
うち、情報工学部課外講座	18
WEBクリエイター(上級)	20
CGクリエイター検定(ベーシック)	1
CGエンジニア検定(ベーシック)	10
マルチメディア検定(ベーシック)	9
日商簿記検定(2級)	18
“(3級)	158
秘書検定(準1級)	5
“(2級)	43
“(3級)	37
医科医療事務検定(2級)	9
リテールマーケティング(2級)	48
TOEIC	376
合計	1,400

*1 合格判定資格ではない。

▶合格実績は難易度の高い第一級陸上無線技術士8名合格など良好で、毎年向上しています。詳しくは、P50「バックデータ集」を参照してください。

■エクステンションセンターの7つのメリット

- 1 学内ダブルスクールによる、時間・交通費の節約
- 2 合格実績の高い講師招聘による、確実な資格の取得
- 3 生涯学習支援の一環として、受講料は安価
- 4 エントリー資格から難関資格まで、多彩に用意
- 5 団体受験会場として、普段の授業と同じ環境で受験が可能
- 6 受験料の割引が適用可能
- 7 過去3年以内の卒業生は、在学生と同じ受講料で受講が可能

5.キャンパスライフサポートの取組

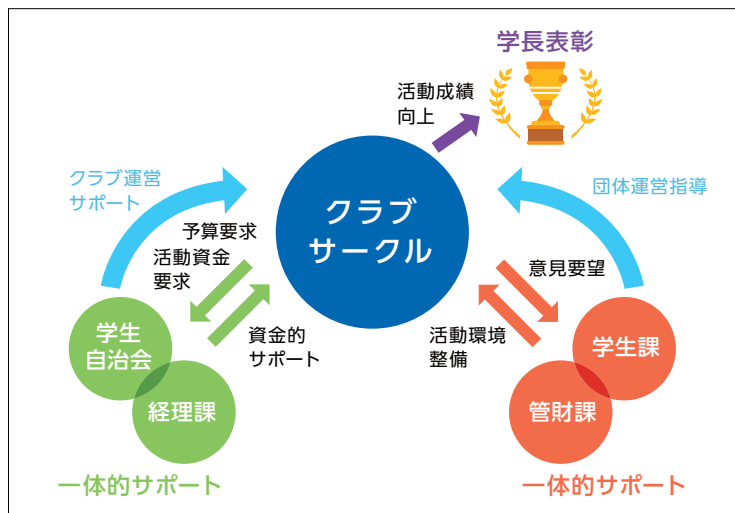
クラブ、サークル活動も重要な学習の機会として、積極的にサポート

学術・文化・スポーツ活動も重要な学習の機会と捉え、積極的にサポートしています。学生の多様な要望を的確に把握し、活動環境の改善に努めています。

■クラブ・サークルへの支援

- ①加入推奨オリエンテーション
- ②学内施設・物品等の貸与
- ③施設使用、旅費等補助
- ④リーダー養成セミナー開催
- ⑤地域貢献活動のサポート
- ⑥試合(発表)等への応援
- ⑦学生表彰

■クラブ・サークル活性化の枠組み



学生の課外活動の環境改善について、全クラブ・サークル(約60団体)のヒアリングを実施。早急な環境改善につなげています。

▶ 各クラブ・サークルの加入者数(詳細)は、P50、表彰結果は、P48を参照。

さまざまな悩みに、親身に寄り添うカウンセリングサポート

学生生活や修学上の不安や悩みに対し、助言・指導するカウンセリング制度を設けています。入学時メンタルヘルス問診、履修登録時Web健康調査(在学生)等をもとに早期の問題把握とサポートに努めています。

■学生生活サポートの体制

専門的 学生支援	臨床心理士等専門的相談の体制
	学生生活相談の体制
	進路に関する相談(キャリアサポート)
	健康管理サポート
	保護者からの相談サポート
修学支援	クラス担任配置によるサポート
	ゼミ等での学習指導
	オフィスアワーの設定
	学習相談コーナー開設
	学生相互の学び(ピア・レビュー)
学生生活支援	新入生全員面談の実施
	新入生オリエンテーションの実施
	履修・生活相談の随時対応
	女子学生・留学生へのサポート
	住居・アルバイトの紹介

■保健室・学生相談室



カウンセラー(常駐)が学生の勉学・生活・将来の夢など日常の相談に親身に対応



障がい学生支援に関する研修会(平成30年2月)

▶ 学生対応のスキル向上を図るため、教職員対象の研修会等を随時、実施しています。(学生支援に関する情報交換会(年間10回)、学生相談室スタッフミーティング(週1回)、新入生全員面談事前説明会、障がい学生支援研修会など)

学生サポートセンター(E棟)で、修学を一体的にワンストップサポート

学生課、教務課、大学院事務室及び就職課を学生サポートセンターとしてE棟に一体的に配置。学生の修学、学生生活、就職、大学院進学まで、親身なサポートを継続しています。

■学生サポートセンター(E棟)など学生生活をサポートする施設の充実



約50人の学生課、教務課、大学院事務室及び就職課スタッフが対応するサポートデスク・カウンター& commons (E棟2階)



就職活動の個別指導の様子



寛ぎ・コミュニケーションのためのデッキ (E棟2階学生広場)



コンビニ(セブンイレブン)を設置し充実した学生生活をサポート(B棟1階)



「デリシャス&ヘルシー」に配慮したカフェテリア(レストラン・カフェ)



遊歩道&屋外カフェテラス (B棟)

▶ キャンパス全域のラーニング commons 化、課外教育施設のリニューアルを進め、快適性・利便性が格段に向上しました。

奨学・経済支援体制により修学継続を強力・柔軟にサポート

学業・特技優秀者のいっそうの精励、経済的に修学が困難となった学生の支援を目的として、多くの奨学制度を有しています。また、学内ワークスタディ制度によって、学生を経済的にサポートしています。

■ 本学独自奨学制度の例

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 入試成績の上位者に対し授業料を免除(全額もしくは半額) |
| 2 | 入学後の学業優秀者に対し授業料を半額免除 |
| 3 | スポーツ等の優秀者に対し授業料などを免除 |
| 4 | 海外留学費用の全額もしくは一部を免除 |
| 5 | 課外活動(クラブ、サークル)の活動費をサポート |
| 6 | 経済的に就学困難な学生に対し授業料を半額免除 |
| 7 | 働きながら学ぶ学内ワークスタディ支援制度 |



学術、文化、スポーツ、社会貢献の分野で活躍した学生を表彰(写真は、平成29年度下期)

■ 学内ワークスタディ制度を活用して活動する学生(オープンキャンパスでの施設案内)



学生スタッフとして、学生が働きながら学ぶことで、修学意欲の高い学生の経済負担を軽減することを目的としています。



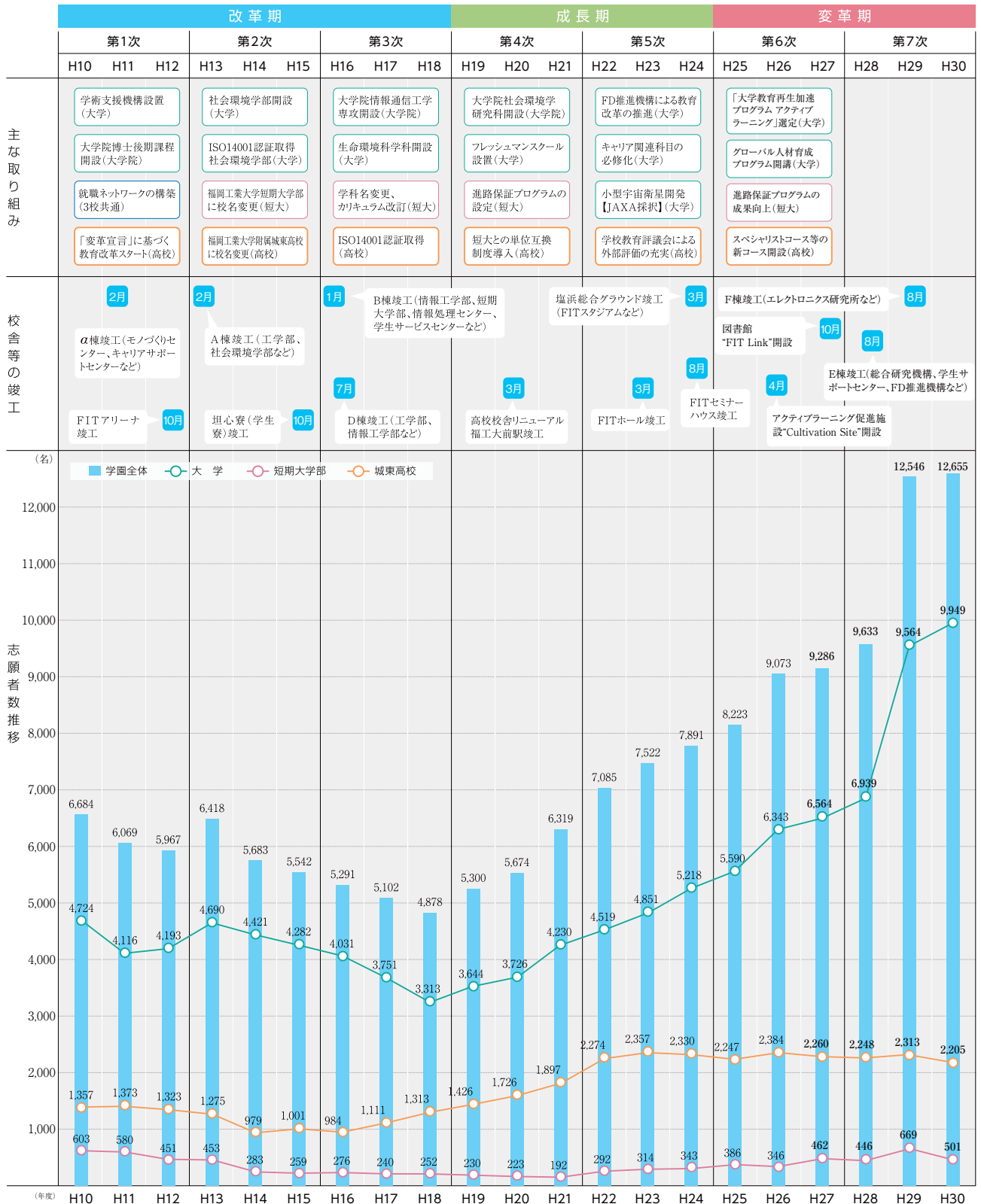
アパート・アルバイト紹介ベース

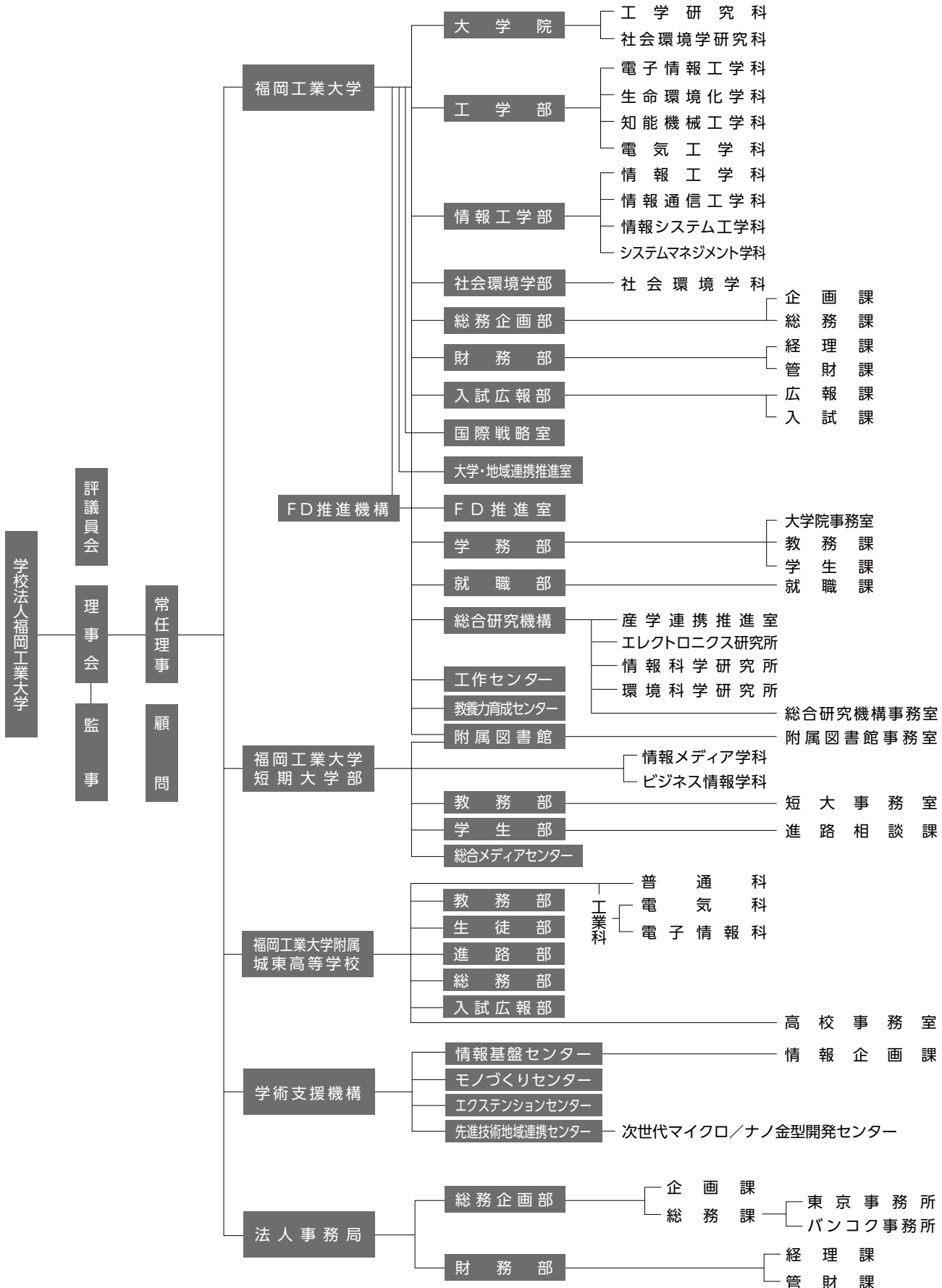
▶ この他、経済的理由により学費納入が困難な場合、一定の範囲で柔軟に延納・分納を認めるなど、学生・ご父母に親身に寄り添う相談・支援体制を構築しています。

マスタープランの概要

大学は、12年連続で入学志願者が増加しました。短大も増加傾向であり、安定して志願者を確保しています。高校は、平成16年度以降7年連続で入学志願者が増加、以降、「県下トップクラス」を維持しています。

■マスタープランの成果





いあいせい

主要な取組成果

学園のプロフィール・各設置校の状況

学校改革の具体的取組状況

バックデータ集

設置学部・学科/専攻概要

(平成30年4月1日現在)

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的
大学	工学部	電子情報工学科		現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。
		生命環境科化学科	生命環境化学基盤コース 生命環境化学アドバンスコース	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物学的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。
		知能機械工学科		情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。
		電気工学科		日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。
	情報工学科	情報工学科		コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。
		情報通信工学科		今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。
		情報システム工学科		今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。
		システムマネジメント学科		高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。
	社会環境学部	社会環境学科	経営コース 地域コース	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。
	大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻 (博士後期課程)	
知能情報システム工学専攻 (博士後期課程)				知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。
電子情報工学専攻				現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立って、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門知識を背景に、独創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。
生命環境科学専攻				本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的に本専攻では、広い視野に立って精深な学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。
知能機械工学専攻				機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。
電気工学専攻				本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修了程度の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講ずるとともに、並行してこの分野の先端的な研究テーマについての研究に取り組みせ創造的対応能力を培う。
情報工学専攻				人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウェア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。
情報通信工学専攻				携帯電話や無線 LAN、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。
情報システム工学専攻				情報システム工学専攻は、少子高齢化社会で求められる様々な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者として求められる高度な学識と研究方法を習得し、情報社会の発展に役立つ研究課題を自ら探求して解決する能力を備えた人材の育成を目的とする。
システムマネジメント学専攻				システムマネジメント専攻は、経営、生産、情報メディアシステムに対して調査・分析・設計・評価に必要な工学的な諸手法について教授し、これらのシステムから得られる情報を有効に利用してシステムを構築・解析・最適化する能力を備えた人材の育成を目的に、教育研究を行う。
短期大学部	社会環境学	社会環境学専攻		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。
		情報メディア学科		情報メディア学科は、情報化社会における即戦力となる技術者の養成および大学等に編入学して更に学びを深める人材の養成を目的として、コンピュータや情報メディアに関する実践的な取り扱い方、プログラミング能力などを育成し、さらに情報科学または情報メディアに関する基礎知識に加えて、社会人及び職業人として必要な自然科学および人文科学の教養およびコミュニケーション能力を育成している。
		ビジネス情報学科		ビジネス情報学科は、人間性・協調性豊かで、進化する IT 技術を活用できる人材の養成を目的として、社会人及び職業人として必要な自然科学および人文科学の教養およびコミュニケーション能力を育成し、併せてコンピュータや情報メディアに関する実践的な取り扱い方、プログラミング能力などを育成している。

資格について ○/所定の単位取得により、在学中または卒業と同時に取得できる資格
 ●/所定の単位取得により、実務経験を経て取得
 ○/指定科目の単位を取得すると、資格試験の一部が免除
 □/全学的に支援・支援講座を行っている資格（エクステンションセンター主催）
 ■/各学科で支援・支援講座を行っている資格
 ☆/国家資格

教員構成(人)*	取得可能学位	取得可能な教員免許	取得支援を実施している資格*
教授 10 准教授 1 助教 3	学士 (工学)	高等学校教諭一種免許状(工業)	■/☆第一級陸上特殊無線技士 ■/☆第一級陸上無線技術士 ■/☆ITパスポート ■/☆基本情報技術者試験 ■/□MOS (Microsoft Office Specialist) □/☆情報セキュリティマネジメント □TOEIC □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士) 検定2級
教授 8 准教授 5 助教 1		高等学校教諭一種免許状(工業、理科) 中学校教諭一種免許状(理科)	◎/☆食品衛生管理者、食品衛生監視員 ◎/☆毒物劇物取扱責任者 ■/☆公害防止管理者(水質) ■/☆危険物取扱者(甲・乙) ■/☆環境計量士 ■環境測定分析士 ■バイオ技術者認定 ■eco検定(環境社会検定試験) □/☆情報セキュリティマネジメント □/☆基本情報技術者試験 □TOEIC □MOS(Microsoft Office Specialist) □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士)検定2級
教授 8 准教授 6 助教 3		高等学校教諭一種免許状(工業)	◎修習技術者(→技術士補) □/☆情報セキュリティマネジメント ■/☆機械保全技能検定 □/☆基本情報技術者試験 ■CAD利用技術者 □TOEIC ■機械設計技術者 □MOS (Microsoft Office Specialist) □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士) 検定2級
教授 6 准教授 5 助教 3		高等学校教諭一種免許状(工業)	●/■/☆電気主任技術者(第1種、第2種、第3種) □TOEIC ■/☆電気工事士 □MOS(Microsoft Office Specialist) □/☆情報セキュリティマネジメント □Webクリエイター能力認定試験 □/☆基本情報技術者試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士) 検定2級
教授 9 准教授 6 助教 1 講師 4	学士 (情報工学)	高等学校教諭一種免許状(数学、情報) 中学校教諭一種免許状(数学)	■/☆ITパスポート ■/□/☆基本情報技術者試験 ■/□/☆情報セキュリティマネジメント ■LPIC(Linux技術者認定試験) ■CCNA(Cisco Certified Network Associate) □TOEIC □MOS(Microsoft Office Specialist) □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士) 検定2級
教授 11 准教授 3		高等学校教諭一種免許状(数学、情報) 中学校教諭一種免許状(数学)	◎/☆第一級陸上特殊無線技士 ○/■/☆工事担当者(ネットワーク接続技術者) ■ネットワークスペシャリスト □リテールマーケティング(販売士) 検定2級 ◎/☆海上特殊無線技士(第二級、第三級) ■/□/☆情報セキュリティマネジメント □TOEIC ◎/■/☆第一級陸上無線技術士 ■/□/☆基本情報技術者試験 □MOS(Microsoft Office Specialist) ◎/■/☆電気通信主任技術者 ■LPIC(Linux技術者認定試験) □Webクリエイター能力認定試験 (伝送交換主任技術者、線路主任技術者) ■CCNA(Cisco Certified Network Associate) □日商簿記検定2級・3級
教授 6 准教授 4 助教 2 講師 2		高等学校教諭一種免許状(数学、情報) 中学校教諭一種免許状(数学)	◎修習技術者(→技術士補) ■CCNA(Cisco Certified Network Associate) □Webクリエイター能力認定試験 ■/☆ITパスポート ■/□MOS(Microsoft Office Specialist) □日商簿記検定2級・3級 ■/□/☆基本情報技術者試験 □/☆情報セキュリティマネジメント □リテールマーケティング(販売士) 検定2級 ■LPIC(Linux技術者認定試験) □TOEIC
教授 5 准教授 3 助教 2		高等学校教諭一種免許状(数学、情報) 中学校教諭一種免許状(数学)	■/☆ITパスポート ■CGクリエイター検定 □TOEIC ■/□/☆基本情報技術者試験 ■DTPエキスパート □Webクリエイター能力認定試験 ■LPIC(Linux技術者認定試験) ■/□MOS(Microsoft Office Specialist) □日商簿記検定2級・3級 ■CCNA(Cisco Certified Network Associate) □/☆情報セキュリティマネジメント □リテールマーケティング(販売士) 検定2級
教授 16 准教授 7 助教 6	学士 (社会環境学)	高等学校教諭一種免許状(公民) 中学校教諭一種免許状(社会)	■eco検定(環境社会検定試験) ■/□MOS(Microsoft Office Specialist) □/☆情報セキュリティマネジメント ■環境管理士 ■/□日商簿記検定2級・3級 □TOEIC ■ピオトップ管理士 ■/□リテールマーケティング(販売士) 検定2級 □Webクリエイター能力認定試験 ■3R・低炭素社会検定 □/☆基本情報技術者試験
教授 20 准教授 2	博士 (工学)		
教授 22 准教授 2			
教授 9 准教授 1 助教 2	修士 (工学)	高等学校教諭専修免許状(工業)	
教授 8 准教授 5 助教 1		高等学校教諭専修免許状(理科) 中学校教諭専修免許状(理科)	
教授 8 准教授 3 助教 1		高等学校教諭専修免許状(工業)	
教授 6 准教授 3 助教 3		高等学校教諭専修免許状(工業)	
教授 7 准教授 5 助教 2		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)	
教授 11 准教授 3		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)	
教授 6 准教授 4 助教 1 講師 2		高等学校教諭専修免許状(情報)	
教授 5 准教授 3 助教 2		高等学校教諭専修免許状(情報)	
教授 8 准教授 3 助教 1	修士 (社会環境学)		
教授 5 准教授 3 助教 1	短期大学士 (情報工学)		■/☆基本情報技術者試験 ■/☆応用情報技術者試験 ■/☆ITパスポート ■秘書技能検定 ■日商PC検定 ■建築CAD検定 ■CAD利用者技術者試験 ■TOEIC ■実用英語技能検定 ■色彩検定 ■診療報酬請求事務能力認定試験 ■CGエンジニア検定 ■マルチメディア検定 ■日本漢字能力検定 ■日商簿記検定 ■全国経理教育協会簿記検定 ■福祉住環境コーディネータ ■CGクリエイター検定 ■Webデザイナー検定 ■ドットコムマスター
教授 2 准教授 4			

※平成30年4月1日現在

役員等の状況

■役員一覧 (平成30年4月1日現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鶴木 洋二	
理事(常務理事)	大谷 忠彦	
理事	下村 輝夫	大学、短期大学部学長
理事	佐伯 道彦	附属城東高等学校長
理事	山下 剛	事務局長
理事(理事長補佐)	米田 達郎	
理事(非常勤)	江頭 公成	
理事(非常勤)	川原 正孝	
理事(非常勤)	園田 勇	
理事(非常勤)	高田 洋征	
理事(非常勤)	森 紀久雄	
理事(非常勤)	小幡 修	
監事(非常勤)	吉戒 孝	
監事(非常勤)	中尾 忠徳	

職名	氏名	兼職名
最高顧問	麻生 渡	

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9~13	12	1号2名、2号2名、3号8名
監事	2~3	2	
評議員	19~27	25	1号4名、2号3名、3号3名、4号15名

※1号理事：学長・校長、同2号：評議員、同3号：学識経験者
1号評議員：学長・校長、同2号：卒業生、同3号：父母、同4号：学識経験者

■部科長一覧 (平成30年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	倪 宝栄
情報工学部長	木室 義彦
社会環境学部長	森山 聡之
工学研究科長	大山 和宏
社会環境学研究科長	李 文忠
学務部長	松尾 敬二
就職部長	上寺 康司
附属図書館長	三田 肇
教養力育成センター長	阿山 光利
情報基盤センター長	利光 和彦
総合研究機構長	田中 秀司
モノづくりセンター長	河村 良行
イクステンションセンター長	利光 和彦
入試広報部長	宋 宇

職名	氏名
電子情報工学科長	片山 龍一
生命環境化学科長	呉 行正
知能機械工学科長	朱 世杰
電気工学科長	梶原 寿了
情報工学科長	山澤 一誠
情報通信工学科長	前田 洋
情報システム工学科長	森園 哲也
システムマネジメント学科長	赤木 文男
社会環境学科長	中川 智治
エレクトロニクス研究所長	数仲 馬恋典
情報科学研究所長	福本 誠
環境科学研究所長	森山 聡之
産学連携推進室長	田中 秀司

教職員数

■教員数 (平成30年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学						福岡工業大学短期大学部								
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別															
教授	32	1	33	30	1	31	15	1	16	5	0	5	2	0	2
准教授	15	2	17	16	0	16	4	3	7	3	0	3	2	2	4
講師	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	8	3	11	7	1	8	4	2	6	1	0	1	0	0	0
合計	55	6	61	56	2	58	23	6	29	9	0	9	4	2	6

■職員数 (平成30年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
男女別	男	女	計	男	女	計
専任職員	64	13	77	1	2	3
特定・嘱託・契約職員	10	52	62	0	5	5
派遣職員	0	19	19	0	0	0
合計	74	84	158	1	7	8

■年齢区分別 教員数 (平成30年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学						福岡工業大学短期大学部								
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別															
29歳以下	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳~39歳	13	4	17	10	1	11	5	4	9	1	0	1	1	0	1
40歳~49歳	12	2	14	21	0	21	8	2	10	3	0	3	1	1	2
50歳~59歳	20	0	20	15	1	16	6	0	6	4	0	4	1	1	2
60歳~69歳	9	0	9	8	0	8	4	0	4	1	0	1	1	0	1
70歳以上	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	55	6	61	56	2	58	23	6	29	9	0	9	4	2	6

■専任教員・非常勤教員比率 (平成30年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学						福岡工業大学短期大学部								
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
専任教員	55	6	61	56	2	58	23	6	29	9	0	9	4	2	6
(比率・%)	48.7%	33.3%	46.6%	58.9%	18.2%	54.7%	56.1%	46.2%	53.7%	60.0%	0.0%	52.9%	50.0%	33.3%	42.9%
非常勤教員	58	12	70	39	9	48	18	7	25	6	2	8	4	4	8
(比率・%)	51.3%	66.7%	53.4%	41.1%	81.8%	45.3%	43.9%	53.8%	46.3%	40.0%	100.0%	47.1%	50.0%	66.7%	57.1%
合計	113	18	131	95	11	106	41	13	54	15	2	17	8	6	14
(比率・%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

平成29年度学位授与数

■学士・短期大学士授与数

学部等名	授与数
工学部	327
情報工学部	408
社会環境学部	191
短期大学部	171

■博士・修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	62	2
社会環境学研究科	4	-

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械創成コース (知能機械工学科)	46
情報通信先端工学コース (情報通信工学科)	8
情報システム技術コース (情報システム工学科)	13

学生数

■大学、短期大学部在籍学生数 (各年5月1日現在)

学部	学科	平成29年度						平成30年度		
		定員	現員	定員充足率	留年者数	退学・除籍者数	中退率	定員	現員	定員充足率
工学部	電子情報工学科	350	413	1.18	50	14	0.03	360	444	1.23
	生命環境化学科	350	407	1.16	48	11	0.03	360	401	1.11
	知能機械工学科	430	487	1.13	55	19	0.04	440	510	1.16
	電気工学科	350	402	1.15	48	25	0.06	360	399	1.11
	合計	1,480	1,709	1.15	201	69	0.04	1,520	1,754	1.15
情報工学部	情報工学科	510	621	1.22	28	23	0.04	520	600	1.15
	情報通信工学科	350	424	1.21	48	29	0.07	360	415	1.15
	情報システム工学科	350	432	1.23	31	11	0.03	360	457	1.27
	システムマネジメント学科	255	320	1.25	20	11	0.03	260	309	1.19
	合計	1,465	1,797	1.23	127	74	0.04	1,500	1,781	1.19
社会環境学部	社会環境学科	690	793	1.15	42	23	0.03	700	758	1.08
大学院	工学研究科(修士)	136	113	0.83	0	0	0.00	128	111	0.87
	工学研究科(博士)	12	15	1.25	0	1	0.07	12	11	0.92
	社会環境学研究科	12	9	0.75	0	0	0.00	12	17	1.42
	合計	160	137	0.86	0	1	0.01	152	139	0.91
福岡工業大学・大学院合計		3,795	4,436	1.17	370	167	0.04	3,872	4,432	1.14
短期大学部	情報メディア学科	210	264	1.26	24	10	0.04	210	263	1.25
	ビジネス情報学科	110	134	1.22	8	6	0.04	110	126	1.15
	合計	320	398	1.24	32	16	0.04	320	389	1.22

■高等学校在籍生徒数 (各年5月1日現在)

課程	平成29年度			平成30年度		
	定員	現員	定員充足率	定員	現員	定員充足率
普通科	1,050	1,488	1.42	1,050	1,472	1.40
電気科・電子情報科	600	626	1.04	600	610	1.02
福岡工業大学附属城東高等学校合計	1,650	2,114	1.28	1,650	2,082	1.26

■国別留学生数 (平成30年5月1日現在)

	中国	タイ	韓国	ベトナム	トンガ	アルバニア	ネパール	マレーシア
大学	11	4	1	2	2	0	0	0
短期大学部	1	0	1	1	0	0	1	1
大学院	39	14	1	0	0	2	0	0
研究生	1	0	0	0	0	0	0	0
科目等履修生	6	3	4	0	0	0	0	0
合計	58	21	7	3	2	2	1	1

平成30年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	スペシャルスキル			推薦※1			一般(3教科型)※2			一般(センター試験利用)※3			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	90	0	0	0	62	58	45	253	135	54	857	292	14	2	2	0	1,174	487	113
	生命環境化学科	90	0	0	0	60	49	39	219	96	25	689	312	30	2	1	0	970	458	94
	知能機械工学科	110	0	0	0	69	62	56	313	151	58	765	350	25	2	1	0	1,149	564	139
	電気工学科	90	3	3	3	50	47	36	255	141	34	677	326	21	2	1	0	987	518	94
	学部合計	380	3	3	3	241	216	176	1,040	523	171	2,988	1,280	90	8	5	0	4,280	2,027	440
情報工学部	情報工学科	130	1	1	1	130	87	78	442	177	66	1,007	197	6	2	0	0	1,582	462	151
	情報通信工学科	90	0	0	0	64	53	48	130	72	26	739	305	25	0	0	0	933	430	99
	情報システム工学科	90	1	1	1	61	50	45	310	145	57	884	335	24	0	0	0	1,256	531	127
	システムマネジメント学科	65	1	1	1	57	47	42	96	33	11	688	219	14	0	0	0	842	300	68
	学部合計	375	3	3	3	312	237	213	978	427	160	3,318	1,056	69	2	0	0	4,613	1,723	445
社会環境学部	社会環境学科	160	40	40	38	110	90	87	184	67	34	721	192	16	1	0	0	1,056	389	175
合計		915	46	46	44	663	543	476	2,202	1,017	365	7,027	2,528	175	11	5	0	9,949	4,139	1,060

※1 専願制(前期・後期)、公募制入試の合計 ※2 追加募集分を含む ※3 前期、中期、後期及びそれらの追加募集分の合計。社会環境学部はセンター併願型入試を含む。

■大学(編入学)

学部	学科	定員※	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	-	1	1	1
	生命環境化学科	-	0	0	0
	知能機械工学科	-	0	0	0
	電気工学科	-	5	0	0
	学部合計	-	6	1	1
情報工学部	情報工学科	-	18	10	10
	情報通信工学科	-	3	1	1
	情報システム工学科	-	10	5	5
	システムマネジメント学科	-	14	5	5
	学部合計	-	45	21	21
社会環境学部	社会環境学科	30	17	4	4
合計		-	68	26	26

※工学部、情報工学部の定員は「若干名」

■大学院

研究科	専攻	定員	一般※1			協定校※2			外国人※3			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	6	6	6	6	5	5	0	0	0	12	11	11
	生命環境科学専攻	8	12	9	8	2	2	2	0	0	0	14	11	10
	知能機械工学専攻	8	4	4	4	3	3	3	1	0	0	8	7	7
	電気工学専攻	8	9	9	9	3	3	3	0	0	0	12	12	12
	情報工学専攻	10	7	7	7	1	1	1	1	1	1	9	9	9
	情報通信工学専攻	8	4	4	4	1	1	1	0	0	0	5	5	5
	情報システム工学専攻	8	7	7	6	1	1	1	0	0	0	8	8	7
	システムマネジメント専攻	6	2	2	1	3	2	2	0	0	0	5	4	3
	工学研究科合計	64	51	48	45	20	18	18	2	1	1	73	67	64
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	2	2	2	0	0	0	2	2	2	4	4	4
修士課程合計		70	53	50	47	20	18	18	4	3	3	77	71	68
工学研究科(博士後期課程)	物質生産システム工学専攻	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2
	知能情報システム工学専攻	2	3	3	3	0	0	0	1	1	1	4	4	4
博士後期課程合計		4	5	5	5	0	0	0	1	1	1	6	6	6

※1 推薦入試、一次・二次入試の合計 ※2 キングモンクット工科大学(タイ)、南京理工大学(中国)、青島科技大学(中国) ※3 一次・二次入試の合計

■短期大学部

学科	定員	特別推薦※1			一般推薦			自己推薦			一般※2			一般C(センター試験利用)※3			留学生			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
情報メディア学科	105	38	38	38	11	11	11	25	22	22	132	68	37	108	51	11	3	1	1	317	191	120
ビジネス情報学科	55	25	25	25	11	11	9	8	7	7	41	25	18	98	58	2	1	1	1	184	127	62
合計	160	63	63	63	22	22	20	33	29	29	173	93	55	206	109	13	4	2	2	501	318	182

※1 附属校・指定校推薦入試の合計 ※2 一期A・B、二期入試の合計 ※3 前期・後期入試の合計

平成30年度学費・徴収金

■大学院

(単位:円)

研究科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学災保険料※	合計
工学研究科 (修士課程)	1年次	150,000	560,000	170,000	62,000	20,000	-	1,750	963,750
	2年次以降	-	560,000	170,000	62,000	20,000	-	-	812,000
工学研究科 (博士後期課程)	1年次	150,000	560,000	170,000	62,000	20,000	-	2,600	964,600
	2年次以降	-	560,000	170,000	62,000	20,000	-	-	812,000
社会環境学研究科	1年次	150,000	490,000	120,000	-	20,000	-	1,750	781,750
	2年次以降	-	490,000	120,000	-	20,000	-	-	630,000

※秋季入学生の学生教育研究災害傷害保険料：修士課程2,600円、博士後期課程3,300円

■部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	200,000	830,000	270,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,478,300
	2年次以降	-	830,000	270,000	88,000	10,000	19,000	-	1,217,000
社会環境学部	1年次	200,000	670,000	170,000	-	10,000	19,000	61,300	1,130,300
	2年次以降	-	670,000	170,000	-	10,000	19,000	-	869,000

※学生諸費の内訳：学生自治会費28,000円、教育後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円

■部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■短期大学部

(単位:円)

学科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000

※学生諸費の内訳：学友会費10,000円、教育後援会費6,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円

■部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■高校

(単位:円)

課程	学年	入学申込金	施設設備費	授業料	施設維持費	実習費	図書費	教育充実費	諸会費・積立金※	合計
普通科	1年次	40,000	190,000	300,000	78,000	-	3,600	48,000	120,000	779,600
	2年次以降	-	-	300,000	78,000	-	3,600	48,000	120,000	549,600
電気科・電子情報科	1年次	40,000	190,000	300,000	78,000	12,000	3,600	48,000	120,000	791,600
	2年次以降	-	-	300,000	78,000	12,000	3,600	48,000	120,000	561,600

※諸会費・積立金の内訳：生徒会費18,000円、同窓会費1,200円、PTA会費16,800円、積立金84,000円

積立金は、1年次4月～2年次11月は修学旅行積立金として、2年次12月～2年次3月は卒業積立金として徴収。3年次は徴収しない。

その他の費用 PTA入会費：10,000円(入学年度のみ)、学年予納金：普通科44,800円、電気科・電子情報科47,400円(各年度)

■部分は12か月分納 教科書代が別途必要

卒業・修了生累計、同窓会員数

■卒業・修了生累計

53,083名 (平成30年3月31日現在)

学部 39,979名
 大学院 1,426名
 修士 1,372名
 課程博士 50名
 論文博士 4名

短期大学部 11,678名

■地域別同窓会会員数

(平成30年2月28日現在)

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	8名	中国	3,081名
関東	830名	四国	1,182名
東海	310名	福岡県	14,204名
関西・北陸	709名	九州・沖縄(福岡県を除く)	7,627名
		合計	27,951名

平成29年度進路状況 平成30年3月卒業者

■大学

学部名	学科名	卒業者数 ※1	就職希望者数	就職内定者数	大学院進学者数	就職率 ※2	実就職率 ※3
工学部	電子情報	69	63	63	6	100.0%	100.0%
	生命環境	89	76	76	8	100.0%	93.8%
	知能機械	96	89	89	4	100.0%	96.7%
	電気	72	63	63	9	100.0%	100.0%
	学部合計	326	291	291	27	100.0%	97.3%
情報工学部	情報	159	148	148	8	100.0%	98.0%
	情報通信	79	71	71	5	100.0%	95.9%
	情報システム	95	87	87	8	100.0%	100.0%
	システムマネジメント	73	72	72	1	100.0%	100.0%
	学部合計	406	378	378	22	100.0%	98.4%
社会環境学部	社会環境	186	180	179	1	99.4%	96.8%
大学合計		918	849	848	50	99.9%	97.7%

※1 前期卒業者を除く ※2 就職率=就職内定者数/就職希望者数 ※3 実就職率=就職内定者数/(卒業者数-大学院進学者数)

■大学院修士課程

専攻名	修了者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率	実就職率
電子情報	3	2	2	0	100.0%	66.7%
生命環境	9	7	7	2	100.0%	100.0%
知能機械	14	14	14	0	100.0%	100.0%
電気	6	6	6	0	100.0%	100.0%
情報	5	4	4	1	100.0%	100.0%
情報通信	7	7	7	0	100.0%	100.0%
情報システム	9	9	8	0	88.9%	88.9%
システムマネジメント	3	1	1	1	100.0%	50.0%
社会環境	2	0	0	0	0.0%	0.0%
合計	58	50	49	4	98.0%	90.7%

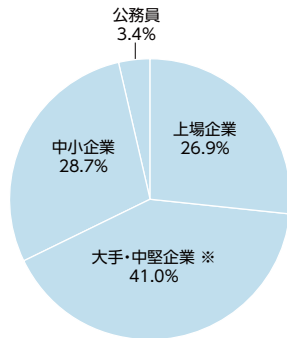
※前期卒業者を除く

■短期大学部

学科名	卒業者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率	実就職率
情報メディア	110	42	42	55	100.0%	76.4%
ビジネス情報	61	42	42	14	100.0%	89.4%
短大合計	171	84	84	69	100.0%	82.4%

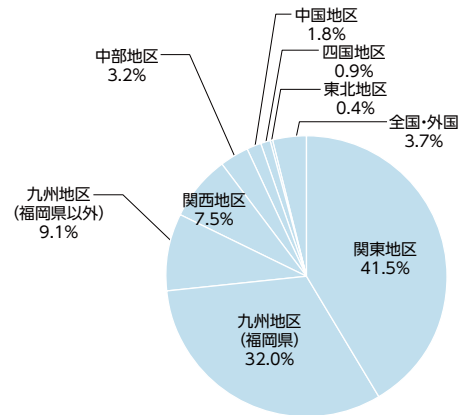
主要就職先 平成30年3月卒業者

■大学・企業規模別



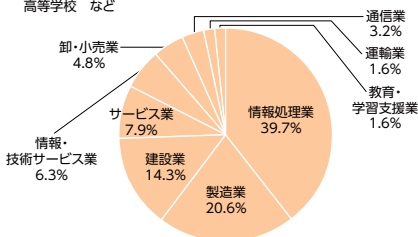
※ 大手・中堅企業は、資本金3億円以上または従業員数300名以上

■大学・地区別



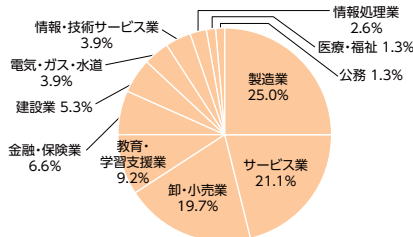
電子情報工学科

日本コムシス(株)／富士古河E&C(株)／(株)きんでん／(株)九電工／東芝テック(株)／(株)正興電機製作所／(株)ジャパンセミコンダクター大分事業所／ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)／(株)トヨタプロダクションエンジニアリング／大分キャンノ(株)／(株)タカギ／NECネットエスアイ(株)／(株)クエスト／デル(株)／ICTコンストラクション(株)／(株)カスターネット／九電ビジネスソリューションズ(株)／(株)くじらシステム開発／(株)サンニクス・ソフトウェア・デザイン／(株)サンレイズ／西日本コンピュータ(株)／(株)ドコモCS九州／(株)九州テン／(株)IBUKI／東京エレクトロンデバイス(株)／アプライド(株)／エス・イー・シーエレベーター(株)／ALSOK(株)／九電産業(株)／(株)アスパーク福岡オフィス／サンビット(株)／福岡工業高等学校 など



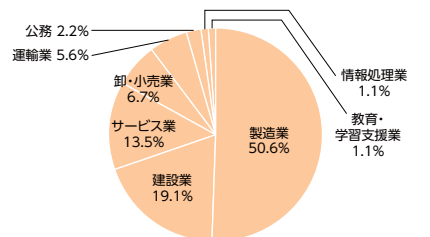
生命環境科学科

(株)高田工業所／(株)伊藤園／(株)ダイショー／山崎製パン(株)／(独)国立印刷局／新興プランテック(株)／ユニチカ(株)／(株)九州電化／(株)フジコー／(株)古賀歯車製作所／クアーズテック(株)／日本テキサス・インスツルメンツ(株)／(株)ムーンスター／月島テック／メンテサービス(株)／(株)サンテック／(株)OSGコーポレーション／アプライド(株)／ロイヤルホールディングス(株)／(株)クレディセゾン／西日本シティ銀行(株)／福岡ひびき信用金庫／(株)十八銀行／第一生命保険(株)／(株)東洋環境分析センター／(株)マイマイ／九電産業(株)／福岡建材(株)／(株)ケイ・イー・エス／計測検査(株)／(株)アビスト／福岡県立香椎工業高等学校／博多女子高等学校／宗像市立河東中学校／北九州市立板櫃中学校／福岡県警察 など



知能機械工学科

(株)サンテック／日本電技(株)／三菱電機プラントエンジニアリング(株)／日本空調サービス(株)／(株)きんでん／住友電設(株)／ダイダン(株)／(株)NTTファシリティーズ九州／(株)九電工／旭化成(株)／(株)資生堂／JFEスチール(株)／西日本製鉄所／黒崎播磨セラコーポ(株)／井関農機(株)／酒井重工業(株)／日機装(株)／(株)共和電業／未来工業(株)／(株)遠藤照明／(株)キューベン／(株)三井ハイテック／サノヤホールディングス(株)／(株)名村造船所／理研計器(株)／エスベック(株)／(株)住原製作所／三和シャッター工業(株)／リントック(株)／山九(株)／西日本旅客鉄道(株)／九州旅客鉄道(株)／東京エレクトロンデバイス(株)／イワタニ九州(株)／リックス(株)／(株)プロンコビリー／監視庁／大分県警察本部 など



■大学院

IMIS-2016 Best Paper Award

BWCCA-2016 Best Paper Award

坂本 真仁(工学研究科 博士後期課程 知能情報システム工学専攻)

LOD Challenge 2017 ゴールドスポンサー賞:JIST賞

LOD Challenge 2016 アプリケーション部門優秀賞

LOD Challenge 2016 プラチナスポンサー賞:LOD for 地域創生賞

電子情報通信学会 I-Discover活用コンテスト 最優秀賞

電子情報通信学会 I-Discover活用コンテスト 優秀賞

槇 俊孝(工学研究科 博士後期課程 知能情報システム工学専攻)

2017年度物理化学インターカレッジセミナー 兼 油化学会界面科学部九州地区講演会 優秀ポスター賞

安樂 信哉(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)

日本化学会 低次元系光機能材料研究会第6回サマーセミナー 優秀講演賞

加藤 利喜(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)

資源・素材学会 九州支部「若手研究者および技術者の研究発表会」素材部門 Presentation award

後藤 葵(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)

日本化学会 低次元系光機能材料研究会第5回サマーセミナー 優秀ポスター賞

2017年度物理化学インターカレッジセミナー 兼 油化学会界面科学部九州地区講演会 優秀ポスター賞

末吉 恵一朗(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)

資源・素材学会 九州支部「若手研究者および技術者の研究発表会」資源・環境部門 Presentation award

三橋 向輝(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)

日本機械学会 三浦賞

辻家 祐介(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)

ICMSA-2017 Best Paper Award

宮村 晶夫(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)

JFPS2017 Best Student Paper Award

東島 権弥(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)

第17回(社)計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演(SI2016) 優秀講演賞

村上 浩太郎(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)

電気学会 九州支部長賞

韓 昌(工学研究科 修士課程 電気工学専攻)

LOD Challenge 2017 ゴールドスポンサー賞:JIST賞

LOD Challenge 2016 アプリケーション部門 優秀賞

LOD Challenge 2016 プラチナスポンサー賞:LOD for 地域創生賞

電子情報通信学会 I-Discover活用コンテスト 優秀賞

電子情報通信学会 九州支部 学術奨励賞

高橋 和生(工学研究科 修士課程 情報通信工学専攻)

IEEE福岡支部 2016Excellent Presentation Award of the IEEE Fukuoka Section

Rachanart Soontornvorn(工学研究科 修士課程 管理工学専攻)

■大学

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

安部 裕人(工学部 電子情報工学科)

ASETNR-17 Best Paper Award

藤崎 晴香(工学部 電子情報工学科)

日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞

石川 真子(工学部 生命環境科学科)

日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞

山元 菜奈未(工学部 生命環境科学科)

表面技術協会 九州支部 優秀学生賞

首藤 万里奈(工学部 生命環境科学科)

日本臨床栄養協会・日本サプリメントアドバイザー認定機構 NR・サプリメントアドバイザー認定試験成績優秀賞

野崎 茜(工学部 生命環境科学科)

資源・素材学会 九州支部 平成30年度

[Outstanding Student Award, Kyushu MMIJ]

吉武 拓朗(工学部 生命環境科学科)

2017年度物理化学インターカレッジセミナー 兼 油化学会界面科学部九州地区講演会 優秀講演賞

古川 聡起(工学部 生命環境科学科)

日本機械学会 畠山賞

江島 謙斗(工学部 知能機械工学科)

電気学会 九州支部長賞

坂野 匠(工学部 電気工学科)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

石原 義大(情報工学部 情報工学科)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

岩本 拓巳(情報工学部 情報通信工学科)

LOD Challenge 2017 JIST賞

古賀 大騎(情報工学部 情報通信工学科)

LOD Challenge 2017 JIST賞

中井 健登(情報工学部 情報通信工学科)

LOD Challenge 2017 JIST賞

平城 裕大(情報工学部 情報通信工学科)

LOD Challenge 2017 JIST賞

河原 直樹(情報工学部 情報通信工学科)

LOD Challenge 2017 JIST賞

平井 麻未(情報工学部 情報通信工学科)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

草場 志帆里(情報工学部 情報システム工学科)

日本機械学会 九州学生会第48回学生員卒業研究発表会講演
会優秀講演賞

宮本 知佳(情報工学部 情報システム工学科)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

白石 亮太(情報工学部 システムマネジメント学科)

日本経営工学会 優秀学生賞

小川 眞依(情報工学部 システムマネジメント学科)

■短期大学部

電気学会 九州支部長賞

佐事 郁弥(情報メディア学科)

■卒業時成績優秀者

藤崎 晴香(電子情報工学科)

古川 聡起(生命環境科学科)

江島 謙斗(知能機械工学科)

田中 雅人(知能機械工学科JABEEコース(知能機械創成コース))

渡邊 龍(電気工学科)

石原 義大(情報工学科)

武林 恵里(情報通信工学科)

岩本 拓巳(情報通信工学科JABEEコース(情報通信先端工学コース))

草場 志帆里(情報システム工学科)

下田 拓実(情報システム工学科JABEEコース(情報システム技術コース))

古賀 菜摘(システムマネジメント学科)

廣瀬 歩夢(社会環境学科)

上山 朋恵(情報メディア学科)

原田 瑞季(ビジネス情報学科)

■団体表彰

第65回全日本吹奏楽コンクール 大学の部 金賞

第62回九州吹奏楽コンクール 大学の部 金賞

第33回福岡県吹奏楽コンクール 大学の部 金賞

第41回全日本アンサンブルコンテスト 管打楽器八重奏 金賞

第43回九州アンサンブルコンテスト 管打楽器八重奏 金賞

第11回福岡県アンサンブルコンテスト 管打楽器八重奏 金賞

吹奏楽団

ジャパンセブンズ2017 全国ベスト4

第55回木元杯 九州セブンズ 優勝

第67回九州地区大学体育大会 セブンズ 優勝

ラグビー部

第26回九州学生女子柔道優勝大会 女子3人制の部 第3位

女子柔道部

平成29年度弓道福岡北部リーグ戦 第3位

平成29年度福岡地区弓道新人戦大会 団体2位

第56回福岡市内学生弓道選手権大会 団体優勝

弓道部男子チーム

平成29年度弓道福岡北部リーグ戦 第3位

弓道部女子チーム

第20回福岡県学生アイスホッケー選手権大会 第3位

第25回パピオ杯争奪アイスホッケーサマーリーグ戦 準優勝

アイスホッケー部

第66回九州学生バドミントン選手権 男子団体B 優勝

バドミントン部

春季九州リーグバレーボール大会 準優勝

平成29年度九州大学秋季バレーボール男子4部リーグ 優勝

男子バレーボール部

アクションサッカー選手権 福岡大会2017 優勝

AIDEM CUP2017 福岡大会 優勝

アクションサッカー同好会

日本ビオトップ協会 環境教育賞

公営財団法人日本生態系協会賞

社会環境学部ビオトップ研究会

文部科学省主催 第6回サイエンス・インカレ ファイナリスト選出

情報システム工学科 FITポケットラボ

第17回九州「川」のワークショップin大野川 特別賞

森山研究室

2017年度「学生地域活動大賞」 優秀賞

たのしんぐらプロジェクト

学内外の清掃ボランティア活動・環境保全活動に尽力した。

環境サークルオアシス部

通常の活動に加え、東部地域大学連携協定学生懇話会の幹事校

として運営に取り組んだ。また、地域のキャンパスサミットへの

出席、学外での環境保全活動に尽力した。

福岡工業大学学生自治会執行部

■個人表彰

第46回福岡六大学野球春季リーグ戦

萱嶋 瞭太(社会環境学科4年) ベストナイン、打撃10傑 第8位

江良 佑介(社会環境学科2年) 打撃10傑 第4位

池田 賢史(社会環境学科4年) 打撃10傑 第10位

坂元 翔太(社会環境学科1年) 投手10傑 第6位

馬場 幹樹(社会環境学科1年) 投手10傑 第10位

第46回福岡六大学野球秋季リーグ戦

東 卓弥(社会環境学科3年) 特別賞 満塁本塁打

小澤 光司(社会環境学科2年) ベストナイン

江良 佑介(社会環境学科2年) 打撃10傑 第6位

古賀 優大(社会環境学科2年) 打撃10傑 第10位

奥間 卓斗(社会環境学科1年) 投手10傑 第5位

馬場 幹樹(社会環境学科1年) 投手10傑 第6位

第31回九州学生女子柔道体重別選手権大会 63kg級 第2位

下條 華蓮(社会環境学科2年)

第31回九州学生女子柔道体重別選手権大会 78kg級 第3位

楢原 咲桜(社会環境学科2年)

平成29年度弓道福岡北部リーグ戦 第3位

平成29年度福岡地区弓道新人戦大会 優勝

荒木 翔太(知能機械工学科2年)

第61回西日本学生弓道選手権大会 第4位

田代 大久(情報システム工学科2年)

第20回福岡県学生アイスホッケー選手権大会

大宅 遼馬(情報システム工学科2年) ベスト6

多田 喜樹(情報通信工学科2年) 敢闘賞

平成29年度九州大学秋季バレーボール男子4部リーグ 最優秀選手

久保山 龍之介(システムマネジメント学科3年)

アクションサッカー選手権 福岡大会2017 最優秀選手

寺田 圭佑(知能機械工学科3年)

平成29年度軟式野球春季リーグ戦 本塁打王

千綿 謙一(電子情報工学科2年)

第77回九州学生選手権水泳競技大会 女子400m自由形 第3位

第93回日本学生選手権水泳競技大会 大会個人標準記録を突破出場

大澤 純加(社会環境学科4年)

第4回全九州テコンドーPMセ選手権大会 準優勝

岩並 桃佳(生命環境科学科3年)

第26回福岡県テコンドー選手権大会

間々田 夏菜子(社会環境学科3年) 準優勝

中村 霞月(生命環境科学科3年) 第3位

阿蘇オープンテコンドーチャンピオンシップ2017 第3位

片山 大尚(知能機械工学科3年)

第66回九州学生バドミントン選手権 ダブルスB級 第3位

寺坂 俊吾(社会環境学科4年)

釘本 亮(情報工学科1年)

平成29年度全九州ライフル射撃選手権大会(AP40W) 優勝

平成29年度第47回西日本ライフル射撃競技選手権大会(AP40W) 第2位

平成29年度冬季ライフル&ピストル射撃競技大会・広島大会 第3位

平 亜結美(電子情報工学科3年)

第13回武雄市各町対抗駅伝大会(第三区) 区間賞

上田 一貴(社会環境学科1年)

第29回全日本ロボット相撲九州大会 全日本の部 ラジコン型 第3位

龍 寛久(知能機械工学科4年)

文部科学省主催 第6回サイエンス・インカレ・コンソーシアム奨励賞 DERUKUI賞

古賀 穂香(情報システム工学科2年)

日本産業技術教育学会 教材開発部門 特別賞

情報システム工学科 FITポケットラボ

テーマ:IoTシステムを実践的に学べる教育教材の開発

高山 篤史(情報システム工学科3年)

手島 星(情報システム工学科3年)

九州アプリチャレンジキャラバン2017 優秀賞

斉藤 大和(情報工学科2年)

生物多様性アクション大賞2017農林水産大臣賞 つたえよう部門優秀賞

日本タウン誌・フリーペーパー大賞2017 大賞

第10回いい川・いい川づくりワークショップin九州 グランプリ

上野 由里代(社会環境学科3年)

東部地域大学連携「女子学生のための防犯推進協議会」会長として貢献

長野 美月(情報工学科3年)

1年次から障害者施設での障害者ボランティアに従事して社会貢献に努め、学生相談室活動でも学生をサポート

城戸 彩花(生命環境科学科4年)

課外活動

■平成29年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
硬式野球部	116	陸上競技部	1	音楽研究部	65
女子柔道部	9	アクションサッカー同好会	55	音響部	60
ラグビー部	69	硬式テニス同好会	54	環境サークルオアシス部	39
アーチェリー部	15	サイクリング同好会	24	茶道部	12
合気道部	15	サッカー同好会(フランケンFC)	29	写真部	46
アイスホッケー部	23	サバイバルスポーツ同好会	69	情報技術研究部	69
弓道部	26	相撲同好会	11	フォークソング研究部	47
剣道部	8	タッチラグビー同好会	23	モダンアート部	36
硬式テニス部	8	男子柔道同好会	9	ロック部	34
サッカー部	17	ダンス同好会	54	アカペラ同好会	31
自動車工学研究部	12	トライアスロン同好会	13	映像同好会	8
準硬式野球部	44	軟式野球同好会	42	演劇同好会	11
水泳競技部	38	バスケットボール同好会(PRESS)	92	競技麻雀同好会	39
ソフトテニス部	35	パワーリフティング同好会	15	国際交流サークル(FIT-ICE)同好会	111
ソフトボール部	26	ハンドボール同好会	25	サブカルチャー同好会	33
卓球部	25	フットサル同好会(ファンタジア)	54	料理・スイーツ研究同好会	29
テコンドー部	43	シーズンスポーツ愛好会	74	アンプラグド愛好会(アコースティックギター)	30
バスケットボール部	42	少林寺拳法愛好会	9	ネットワーク競技愛好会	35
バドミントン部	34	吹奏楽団	60	模型愛好会	14
バレーボール部	34	オールラウンドミュージック部	75		

加入者総計2,176名

■平成29年度モノづくりセンタープロジェクトメンバー数

プロジェクト名	メンバー数
ソーラーカー	15
ロボコン	17
ロボット相撲	11
手作りアクセサリ	15
ビオトープ	6
二足歩行ロボット	25
計	89

平成29年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許種類	科目	取得者数
高校一種	数学	22
	理科	9
	工業	2
	情報	12
	公民	4

免許種類	科目	取得者数
中学校一種	数学	19
	理科	7
	社会	2

■資格取得実績・大学

資格名称	合格者数
第1級陸上特殊無線技士	22
第1級陸上無線技術士	8
第1級陸上無線技術士(科目合格)	3
公害防止管理者水質一種	1
公害防止管理者水質二種(科目合格)	1
危険物取扱者免状(乙種)	5
バイオ技術者認定(中級)	4
NR・サプリメントアドバイザー	1
機械保全技能検定 機械系保全作業2級	6
機械保全技能検定 機械系保全作業3級	4
CAD利用技術者試験2級	10
第2種電気主任技術者(科目合格)	1
第3種電気主任技術者	3
第3種電気主任技術者(科目合格)	3
基本情報技術者(FE)	14
応用情報技術者	2
情報セキュリティマネジメント	6
ITパスポート	38
電気通信設備工事担当者(AI・DD総合種)	1
LPIC-1	1

資格名称	合格者数
CCNA	2
CCNP	1
CGクリエイター検定(ベーシック)	1
CGクリエイター検定(エキスパート)	1
Webクリエイター能力認定試験上級	20
リテールマーケティング(販売士)検定2級	8
Microsoft Office Specialist Word	227
Microsoft Office Specialist Excel	147
医科医療事務検定(2級)	4
日商簿記検定2級	4
日商簿記検定3級	32
秘書検定2級	16
秘書検定3級	27
英検2級	1

■資格取得実績・短期大学部

資格名称	合格者数
ITパスポート	3
日商PC検定 文書作成3級	1
日商PC検定 文書作成 Basic	10
日商PC検定 データ活用3級	3
日商PC検定 データ活用 Basic	4
日商PC検定 プレゼン資料作成2級	1
日商PC検定 プレゼン資料作成3級	3
CGエンジニア検定(ベーシック)	5
CGクリエイター検定(エキスパート)	1
マルチメディア検定(ベーシック)	7
建築CAD検定3級	7
日商簿記検定3級	10
全経簿記能力検定3級	16
全経簿記能力検定4級	34
秘書検定準1級	1
秘書検定2級	4
秘書検定3級	5
漢字検定準2級	1
Microsoft Office Specialist Word	4
Microsoft Office Specialist Excel	4
色彩検定2級	2
色彩検定3級	1
医科第三級医療事務技能検定	19

国際交流

■国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容						平成29年度交流学生数	
			教育研究 活動交流	共同研究	学生交流	教育・研究者 交流	事務職員 交流	留学生 募集戦略	本学からの 派遣	協定校 学生の受入
米国	フットヒルカレッジ	1992	◎	-	◎	◎	-	-	-	-
	オレゴン州立大学工学部	2002	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-
	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	-	-	◎	-	-	-	-	-
	サンノゼ州立大学	2015	◎	-	◎	◎	-	-	5	-
	セントメアリーズカレッジカリフォルニア	2018	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-
韓国	慶星大学校	1981	-	-	◎	-	-	-	4	3
	永進専門大学	1994	◎	-	◎	◎	◎	-	-	-
	啓明大学校工学部	2009	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-
中国	大連理工大学	1988	-	-	-	-	-	◎	-	5
	南京理工大学	1993	-	-	◎	-	-	-	-	12
	青島科技大学	2008	-	-	◎	-	-	◎	-	10
	北華大学	2008	-	-	-	-	-	◎	-	-
台湾	高雄第一科技大学	2017	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-
タイ	キングモンクット工科大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	-	5	34
	チュラロンコン大学理学部	2009	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-
	泰日工科大学	2017	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-
豪州	フェデレーション大学	2001	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-

研究活動

■外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
共同研究	金額	17,275	14,219	6,375	11,083	10,507	10,355	37,472	18,403
	件数	19	14	11	15	14	18	19	21
受託研究	金額	17,003	16,116	6,535	13,113	8,781	14,625	18,106	42,203
	件数	8	8	6	9	6	11	13	13
奨学寄付金	金額	7,467	3,500	5,133	500	7,949	18,635	14,426	17,200
	件数	6	5	5	1	9	20	16	15
科学研究費補助金	金額	45,850	43,030	60,970	53,690	71,310	74,360	92,820	79,820
	件数	25	29	40	39	41	48	53	60
その他外部助成金	金額	475	1,566	5,439	23,570	653	540	0	1,620
	件数	3	2	5	10	4	1	0	2
合計	金額	88,070	78,431	84,452	101,956	99,200	118,515	162,824	159,246
	件数	61	58	67	74	74	98	101	111

教育関係補助金の交付状況

■私立大学等経常費補助金の交付実績推移

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
一般補助	350,247	531,328	457,753	520,271	551,908
特別補助	382,202	99,322	94,815	96,906	137,690
合計	732,449	630,650	552,568	617,177	689,598

区分	H27	H28	H29
一般補助	445,929	532,698	533,344
特別補助	168,196	160,145	241,195
合計	614,125	692,843	774,539

■平成29年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

文科省補助区分	事業名	交付額
大学教育再生加速プログラム	テーマ「アクティブ・ラーニング」	12,880
私立学校施設整備費補助金	身体障害者に優しい車いす対応自動ドア化改造工事	4,200
合計		17,080

附属施設

■図書館蔵書数 (平成30年5月1日現在) (単位:冊)

図書区分	蔵書数
和書	247,603
洋書	66,773
学術雑誌	1,706
AV資料	768
合計	316,850

■情報基盤センター利用者数推移 (単位:人)

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
35,195	33,783	33,202	31,878	33,614	33,044	34,371	35,390

■平成29年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
資格取得支援講座	37	767
文化教養講座	193	1,539
FIT講座	4	81
合計	234	2,387

■図書館利用者数推移 (単位:人)

利用者区分	H22	H23	H24	H25	H26
学内利用者	42,988	40,480	39,899	39,632	41,206
学外利用者	7,131	5,719	2,979	6,118	12,191
合計	50,119	46,199	42,878	45,750	53,397

利用者区分	H27	H28	H29
学内利用者	70,846	137,662	164,170
学外利用者	29,531	34,007	27,701
合計	100,377	171,669	191,871

■平成29年度モノづくりセンター利用者数

講座名	利用者数
学生プロジェクト	6,249
研究利用	534
一般利用	3,167
合計	9,950

校地・校舎

■校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(m ²)	建築年
A棟	クリーンルーム、学生ホール、ラーニングコーナー、売店、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,040	平成13年
B棟	情報基盤センター、レストラン、コンビニ、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22、インキュベーションスタジオ1	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、売店、書店、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
E棟	学生サポートセンター、フレッシュマンスクール、アクティブラーニングエリア、研究所、オープンラボ	7,500	平成28年
F棟	インキュベーションスタジオ2、研究スペース4	812	平成29年
α棟	モノづくりセンター、グローバルスチューデントラウンジ、ラーニングスペース、多目的ホール(収容人数200人)	1,750	平成11年
本部棟	FIT Link(図書館)、エクステンションセンター、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、インキュベーションスタジオ3、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容員数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数79、収容人数308人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数107、収容人数141人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮(部屋数27、収容人数50人)	1,102	平成4年
和白グラウンド	高校部活動用地他	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、多目的グラウンド	38,188	平成23年
FITアリーナ WESTコート	スポーツコート、相撲場	2,308	平成27年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

収入の部		(単位:千円)
科 目	決 算 額	
学生生徒等納付金収入	6,484,652	
手数料収入	142,908	
寄付金収入	50,276	
補助金収入	1,433,602	
資産売却収入	500,000	
付随事業・収益事業収入	239,012	
受取利息・配当金収入	126,715	
雑収入	228,679	
借入金等収入	0	
前受金収入	2,121,201	
その他の収入	437,108	
資金収入調整勘定	△ 2,288,955	
前年度繰越支払資金	2,081,195	
収入の部合計	11,556,392	
支出の部		
科 目	決 算 額	
人件費支出	4,828,732	
教育研究経費支出	1,875,061	
管理経費支出	731,916	
借入金等利息支出	0	
借入金等返済支出	0	
施設関係支出	947,406	
設備関係支出	485,704	
資産運用支出	555,096	
その他の支出	222,155	
資金支出調整勘定	△ 253,369	
次年度繰越支払資金	2,163,692	
支出の部合計	11,556,392	

■貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

資産の部		(単位:千円)
科 目	平成29年度末残高	
固定資産	32,583,451	
有形固定資産	23,812,529	
土地	3,487,651	
建物	14,971,219	
構築物	1,429,987	
教育研究用機器備品	2,580,656	
その他の機器備品	147,042	
図書	1,151,935	
車両	44,039	
建設仮勘定	0	
特定資産	6,230,000	
第3号基本金引当特定資産	1,500,000	
退職給与引当特定資産	1,600,000	
施設拡充引当特定資産	2,630,000	
教育設備引当特定資産	500,000	
その他の固定資産	2,540,922	
有価証券	2,458,911	
預託金、施設利用権など	82,011	
流動資産	2,401,048	
現金預金	2,163,692	
未収入金	143,190	
修学旅行預け金、前払金など	94,166	
資産の部合計	34,984,499	

■事業活動収支計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで) (単位:千円)

教育活動収支		科 目	決 算 額
収入	教育活動収入	学生生徒等納付金	6,484,652
		手数料	142,908
		寄付金	50,276
		経常費等補助金	1,425,183
		付随事業収入	239,012
		雑収入	228,679
		教育活動収入計	8,570,710
		人件費	4,866,375
		教育研究経費	2,883,965
		管理経費	799,084
徴収不能額引当金繰入等	356		
教育活動支出計	8,549,780		
教育活動収支差額		20,930	
収入	教育活動外収入	受取利息・配当金	122,214
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	122,214
		借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	0		
教育活動収支差額		122,214	
経常収支差額		143,144	
収入	特別収入	資産売却差額	0
		その他の特別収入	38,445
		特別収入計	38,445
		資産処分差額	44,045
		その他の特別支出	0
特別支出計	44,045		
特別収支差額		△ 5,600	
基本金組入前当年度収支差額		137,544	
基本金組入額合計		△ 1,163,107	
当年度収支差額		△ 1,025,564	
前年度繰越収支差額		△ 7,656,915	
基本金取崩額		4,328	
翌年度繰越収支差額		△ 8,678,151	
(参考)			
事業活動収入計		8,731,369	
事業活動支出計		8,593,825	

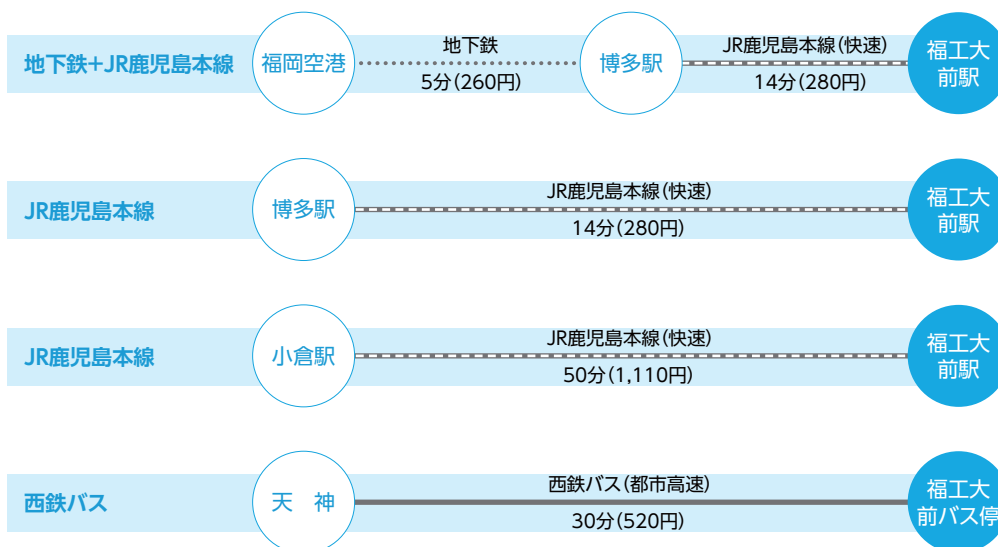
負債の部 (単位:千円)

科 目	平成29年度末残高
固定負債	1,672,685
長期未払金	16,035
退職給与引当金	1,656,650
流動負債	2,666,158
未払金	220,490
前受金	2,121,201
預り金	280,807
仮受金	43,660
負債の部合計	4,338,843

純資産の部 (単位:千円)

科 目	平成29年度末残高
基本金	39,323,807
第1号基本金	37,319,807
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	504,000
繰越収支差額	△ 8,678,151
翌年度繰越収支差額	△ 8,678,151
純資産の部合計	30,645,656
負債及び純資産の部合計	34,984,499

減価償却額の累計額の合計額 13,500,544



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成 29 年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編集／福岡工業大学 IRプロジェクト

編集協力・印刷／久野印刷(株)

〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町3番1号 TEL: 092-262-5726 FAX: 092-262-5720

発行／平成30年8月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL: 092-606-0619 FAX: 092-606-8923



For all the students
FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境化学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科